多根総合病院

2023 年度年報

目次

【病院概要】 ..... - 2 -
◆内 科 ..... - 4 -
◆総合診療内科 ..... - 5 -
◆循環器内科 ..... - 6 -
◆消化器内科 ..... - 9 -
◆脳神経内科 ..... - 12 -
◆外 科 ..... - 13 -
◆緩和医療科 ..... - 18 -
◆整形外科 ..... - 19 -
◆脳神経外科 ..... - 20 -
◆小児科 ..... - 23 -
◆泌尿器科 ..... - 24 -
◆皮膚科 ..... - 25 -
◆耳鼻咽喉科 ..... - 26 -
◆形成外科 ..... - 28 -
◆歯　科 ..... - 30 -
◆麻酔科 ..... - 31 -
◆放射線診断科 ..... - 32 -
◆放射線治療科 ..... - 34 -
◆救急科 ..... - 37 -
◆腫瘍内科 ..... - 38 -
◆DS（日帰り手術）センター ..... - 39 -
◆看護部 ..... - 41 -
◆薬剤部 ..... - 44 -
◆医療技術部　中央検査部門 ..... - 47 -
◆医療技術部　臨床工学部門 ..... - 48 -
◆医療技術部　リハビリテーション部門 ..... - 49 -
◆医療技術部　栄養管理部門 ..... - 50 -
◆医療安全管理部 ..... - 53 -
◆感染制御部 ..... - 55 -
◆卒後臨床研修センター ..... - 58 -
◆事務部 ..... - 59 -
【各科医師スタッフ　資格一覧】 ..... - 61 -
【学会発表】 ..... - 64 -
【執筆・論文】 ..... - 85 -

〒550-0025　大阪市西区九条南 1-12-21
TEL：06-6581-1071　FAX：06-6581-2520
交 通：電車
JR 環状線大正駅
または大阪メトロ長堀鶴見緑地線大正駅下車
または阪神なんば線ドーム前駅下車徒歩 8 分
大阪シティバス
なんば駅前（60）天保山行、境川下車すぐ
大阪駅前（88）天保山行、境川下車すぐ
淀屋橋駅前（107）弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ

【病院概要】

院 長	丹羽　英記
開設日	1949 年（昭和 24 年）10 月（1969 年 7 月に総合病院の名称承認）
病床数	304 床
標榜科目	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・脳神経内科・疼痛緩和内科・外科・呼吸器外科・消化器外科・内視鏡外科・乳腺外科・肛門外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・泌尿器科・婦人科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・臨床検査科・救急科・小児科・皮膚科・麻酔科・歯科・神経眼科
土地・建物（㎡）	敷地面積：5,514.29 ㎡　　延床面積：23,389.81 ㎡
指定･認定関係	大阪府がん診療拠点病院、厚生労働省指定臨床研修指定病院、災害拠点病院 臨床検査技師実習指定病院、薬剤師実務研修施設、看護学校実習指定病院 救急告示病院（二次救急指定病院）、病院群輪番制病院、マンモグラフィ検診施設 大阪公立大学医学部臨床実習施設、大阪医科薬科大学臨床教育協力機関 兵庫医科大学第 6 学年次「自由選択実習」協力施設 新専門医制度専門研修プログラム内科領域基幹施設 日本内科学会認定教育関連施設、日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設、大阪府肝炎専門医療機関 日本大腸肛門病学会認定施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、日本緩和医療学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳神経外科学会専門医研修施設、日本脳卒中学会専門医制度研修教育施設 日本脳卒中学会認定　一次脳卒中センター、日本神経学会認定教育施設 日本整形外科学会認定医制度による研修施設、日本手外科学会関連研修施設 日本泌尿器科学会拠点教育施設、日本麻酔科学会認定病院 日本形成外科学会認定施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系） 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設 日本医学放射線学会　放射線科専門医修練機関 日本放射線腫瘍学会認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会　NST 稼働施設、日本栄養療法推進協議会　NST 稼働施設

	日本臨床栄養代謝学会　栄養サポートチーム専門療法士認定規定認定教育施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
基準関係	一般病棟入院基本料（７対１）、臨床研修病院入院診療加算、救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算、超急性期脳卒中加算、診療録管理体制加算、医師事務作業補助体制加算（15 対 1)、急性期看護補助体制加算（25 対 1)、夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算、療養環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算１、感染防止対策加算 1、感染防止対策地域連携加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、退院支援加算１、退院支援加算２、救急搬送患者地域連携紹介加算、救急搬送患者地域連携受入加算、呼吸ケアチーム加算、病棟薬剤業務実施加算、データ提出加算２（イ)、特定集中治療室管理料 3、ハイケアユニット入院医療室管理料 1、緩和ケア病棟入院料、短期滞在手術基本料２、歯科外来診療環境体制加算、糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料 1、がん患者指導管理料 2、糖尿病透析予防指導管理料、院内トリアージ実施料、夜間休日救急搬送医学管理料、外来リハビリテーション診療料、外来放射線照射診療料、ニコチン依存症管理料、開放型病院共同指導料、がん治療連携計画策定料、薬剤管理指導料、診療情報提供料（Ｉ）の検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報、医療機器安全管理料１、医療機器安全管理料２、歯科治療総合医療管理料、在宅療養後方支援病院、造血器腫瘍遺伝子検査、ＨＰＶ核酸検出、検体検査管理加算（Ｉ)、検体検査管理加算（IV)、ヘッドアップティルト試験、神経学的検査、センチネルリンパ節生検、遠隔診断、画像診断管理加算２、CT 撮影及び MRI 撮影、冠動脈ＣＴ撮影加算、心臓 MRI 撮影加算、乳房ＭＲＩ撮影加算、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算１、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ)、脳血管疾患等リハビリテーション料（II)、運動器リハビリテーション料（Ｉ)、呼吸器リハビリテーション料（Ｉ)、がん患者リハビリテーション料、歯科口腔リハビリテーション料 2、処置の加算、手術の加、CAD/CAM 冠、乳がんセンチネルリンパ節加算１及び２、骨移植、経皮的冠動脈形成術、経皮的ステント留置術、ペースメーカー移植術及び交換術、大動脈バルーンパンピング法、体外衝撃波胆石破砕術、体外衝撃波膵石破砕術、腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、体外衝撃波腎・尿管結石破砕術、膀胱水圧拡張術、人工尿道括約筋植込・置換術、点数表手術の通側５及び６の手術、輸血管理料Ⅰ、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算、麻酔管理料（Ｉ)、放射線治療専任加算、外来放射線治療加算、高エネルギー放射線治療、１回線量増加加算、強度変調放射線治療（IMRT)、画像誘導放射線治療加算、体外照射呼吸性移動対策加算、直線加速器による定位放射線治療、定位放射線治療呼吸性移動対策加算、病理診断管理加算Ⅰ、口腔病理診断管理加算Ⅰ、クラウン・ブリッジ維持管理料、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術、組織拡張器による再建手術（乳房)、入院時食事療養（Ｉ）
第三者評価	財）日本医療機能評価機構認定病院

（2024 年 3 月現在）

◆内 科

【部署概要】

当院の内科は消化器内科、循環器内科および総合診療内科（感染症内科、糖尿病内科等）の各科が協力して入院診療を行う体制になっている。それに加えて外来では呼吸器内科、代謝内分泌内科、肝臓内科、膠原病内科および血液内科の専門の医師が診療に従事している。各科の医師は専門性を高めつつ、内科全般を診ることで、多根総合病院の特色を出している。研修医を修了した後も専攻医として内科に籍を置いて専門性を高める若い医師や、大学医局からの医師派遣とがあいまって内科医師数が年々増加していることは大変喜ばしい。どんどん新しい分野にチャレンジしていく風土を築いていきたい。

【診 療・部署体制】

【スタッフ】

瓦林　孝彦　副院長／内科統括部長
浅井　哲　　消化器内科・内視鏡センター部長
土井　淳史　循環器内科部長
福田　圭祐　循環器内科部長
髙宮　みさき 感染症内科部長
新田　洋介　内科副部長
赤峰　瑛介　消化器内科副部長
藤本　直己　消化器内科副部長
一ノ名　巧　消化器内科副部長
中尾　栄祐　消化器内科医長
竹下　宏太郎 消化器内科医長
山崎　玲子　循環器内科医長
松尾　健司　消化器内科医長
神保　仁美　消化器内科医長
田中　佐和　循環器内科医長
塚本　拓也　医局員
大舘　秀太　医局員
藤田　裕真　医局員
西垣　圭祐　医局員
橋村　友哉　医局員
島　佳弘　　医局員
森脇　和希　医局員
小泉　葵　　医局員
松原　佳穂　医局員
橋本　沙優里 医局員

【特 色・トピックス】

今年度は循環器内科（不整脈科）に土井淳史先生を迎えることができた。これにより心臓電気生理検査や心臓カテーテルアブレーション治療が当院で実施できるようになった。上室性頻拍症や心房細動の治療が可能となり虚血のカテーテル治療に加えて診療の範囲が大きく広がった。

【診 療・部署実績】

各科の診療実績を参照

◆総合診療内科

【部署概要】

内科は臓器別診療科に細分化される方向にあるが、特に初診の患者に対しては幅広い視野で診察に当たることが必要である。 内科疾患は多岐に渡るが種々の訴えで来院される患者に幅広く対応し、鑑別診断を行い、的確な治療を行っていきたいと考えている。
具体的には、本院では消化器内科、循環器内科、脳神経内科、尿病内科などの専門診療科はあるので、総合診療内科では、主としてそれ以外の内科疾患、未だ診断のついていない疾患、臓器を特定できない疾患を取り扱っている。入院診療においては、肺炎などの種々の感染症、不明熱、内分泌代謝疾患、専門診療を必要としない心疾患や呼吸器疾患を扱っている。令和 6 年 5 月 8 日より新型コロナウィルス感染症が 5 類感染症になった。それにともないいままで行ってきた感染症対策を徐々に見直しているが、まだすぐに脅威がなくなったわけではない。この感染症に注意して対処している。

【診 療・部署体制】

【スタッフ】

淺井　哲	消化器内科部長
髙宮　みさき	感染症内科部長
一ノ名　巧	消化器内科副部長
朴　將輝	医長
山崎　玲子	循環器内科医長
大舘　秀太	消化器内科医員
森脇　和希	循環器内科医員
濱　典男	非常勤
福田　大受	非常勤
並川　浩己	非常勤

【特 色・トピックス】

当院の総合診療内科は消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、感染症内科の各科が協力して入院および外来診療を行う体制になっている。各科の医師は高度の専門性を保ちつつ、内科全般を診療していることが総合診療内科の特色である。

◆循環器内科

【部署概要】

当院では下記の疾患群に特に力を入れて診療している。
1. 胸痛を主訴とした狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患
2. 下肢の疼痛や間欠性跛行の原因となる閉塞性動脈硬化症
3. 息切れを主訴とするような慢性心不全、心臓弁膜症
4. 動悸・失神などの原因となる不整脈
5. 動脈硬化を促進する高血圧、脂質異常症、糖尿病

入院では心臓カテーテル検査、冠動脈形成術、下肢動脈血管形成術、恒久ペースメーカー植え込み術、アブレーションなどを中心とした侵襲的治療から、最近高齢化に伴い急速に増加してきた慢性心不全の治療にも積極的に取り組んでいる。また、検査では冠動脈 CT、心エコー図や心臓シンチグラムを駆使して正確な診断に努めている。

【診 療・部署体制】

緊急カテーテル検査はオンコール体制にて対応している。
増加する心不全に対して治療体制を整備している。
侵襲的な治療や検査は常に安全に留意している。

【スタッフ】

瓦林　孝彦 副院長／内科統括部長
土井　淳史 部長
福田　圭祐 部長
山崎　玲子 医長
田中　佐和 医長
塚本　拓也 医局員
西垣　圭祐 医局員
森脇　和希 医局員

【特 色・トピックス】

循環器疾患の患者総数はコロナ禍で一般病床の利用を制限させた時期でも増加傾向にあった。心不全患者の入院数は全体の 40%を超えてきた。その結果心エコー件数は増加している。社会の高齢化が進んでいることが原因と考えられる。冠動脈 CT 検査は外来での狭心症の診断や術後の再狭窄の診断に利用され増加傾向にある。今年度から不整脈治療に関しては積極的に取り組んだ結果、不整脈の入院とアブレーション数が大きく増加した。また、緊急冠動脈形成術の数が待機的形成術の数を上回って 52%となってきており、コロナ後の緊急対応でも貢献できたと考えている。

【診 療・部署実績】

入院患者数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
循環器疾患患者退院数	357	330	403	371	372
心不全	135	142	154	172	153
慢性虚血性心疾患	132	88	99	50	52
急性冠症候群	33	33	77	46	46
閉塞性動脈硬化症	11	20	27	34	28
不整脈	−	−	−	39	77

循環器疾患の検査件数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
冠動脈造影（緊急含む）	114	78	105	116	89
経皮的冠動脈形成術	67	42	57	28	33
緊急経皮的冠動脈形成術	28	31	56	34	42
下肢造影検査	14	22	40	41	38
経皮的下肢動脈形成術	14	22	37	33	33
ペースメーカー植込み（新規）	14	5	11	19	13
ペースメーカー電池交換	3	4	3	4	5
カテーテルアブレーション			10	2	44
心エコー検査数	3266	3401	3694	3775	3962
トレッドミル	49	44	24	16	20
ホルター心電図	204	172	188	151	210
冠動脈造影CT検査数	80	70	103	134	121
下肢動脈造影CT検査数	16	9	22	17	15

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	
冠動脈造影	168	115	145	118	103	
緊急冠動脈造影	41	36	73	60	61	緊急冠動脈造影に PCI は入れない
経皮的冠動脈形成術	67	42	58	28	33	
緊急経皮的冠動脈形成術	28	31	55	34	42	
下肢造影検査	14	22	40	41	38	
経皮的下肢動脈形成術	14	22	37	33	33	
ペースメーカー植込み（新規）	14	5	11	19	13	

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
ペースメーカー電池交換	3	4	3	4	5
カテーテルアブレーション			10	2	44
心エコー検査数	3266	3401	3694	3775	3962
トレッドミル	49	44	24	16	20
ホルター心電図	204	172	188	151	210
冠動脈造影 CT 検査数	80	70	103	134	121
下肢動脈造影 CT 検査数	16	9	22	17	15

	月	火	水	木	金
AM	カテーテル検査 カテーテル治療 ペースメーカー	症例カンファレンス 心筋シンチ トレッドミル	カテーテル検査 カテーテル治療	症例カンファレンス	カテーテル検査 カテーテル治療
PM	ペースメーカー	CPAP 外来 ペースメーカー外来 カンファレンス 抄読会	カテーテル検査 カテーテル治療		カテーテル検査 カテーテル治療

		2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
CAG	CAG、確認	101	73	88	90	70
	緊急	13	5	17	26	19
	合計	114	78	105	116	89
PCI	PCI	67	42	57	28	33
	緊急	28	31	56	34	42
	合計	95	73	113	62	75
	CAG と PCI の緊急合計	41	36	73	60	61
	PCI 含む CAG の数	168	115	145	118	103

◆消化器内科

【部署概要】

当院の消化器内科は、内視鏡センター、消化器センターに所属し、指導医・専門医・認定医資格を持つスタッフ医師と後期研修医（レジデント）で構成されており、消化器疾患（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵）を緊急例から慢性疾患・癌治療まで幅広く診療しております。内視鏡検査・治療は、スクリーニング検査から高度な専門治療まで年間 10,000 件以上行っています。

【診 療・部署体制】

消化管：2023 年度は上部消化管内視鏡検査を約 7,100 件、下部消化管内視鏡検査を約 2,800 件を行っています。消化管早期癌（食道・胃・大腸）に対する拡大 NBI 内視鏡診断・ESD を大きな偶発症なく安全に行っています。また潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療を生物学的製剤、分子標的治療薬、CAP 療法などの専門的治療も含め行っております。小腸内視鏡（カプセル内視鏡およびバルーン内視鏡）も行っており、全消化管を精密検査できる環境が整っています。胃食道逆流症患者に対する内視鏡治療(ARMS)も行っております。

肝：一般的な肝疾患診療に加え超音波用造影剤（ソナゾイド）を用いた造影エコーによる肝臓癌の精査も施行しております。近年目覚しい進歩を遂げたウイルス性慢性肝炎に対するインターフェロンフリーの抗ウイルス療法をはじめ、肝臓癌に対するラジオ波焼灼術（RFA）や肝動脈化学塞栓術（TACE）を行っております。また肝硬変患者に生じる食道胃静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術/硬化療法（EVL/EIS)、胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術（BRTO）や、腹水患者に対する腹水濾過濃縮還元療法（CART)、腹腔-静脈シャント（Denver シャント）も行っています。

胆膵：2023 年度は総胆管結石・慢性膵炎・胆管癌・膵癌などに対する ERCP を年間 450 件以上行っています。同疾患や膵嚢胞性病変に対するコンベックス型超音波内視鏡（EUS）による観察や EUS-FNAB（EUS ガイド下穿刺吸引細胞診-組織診）や EUS-BD（EUS ガイド下胆道ドレナージ）等の先進的な医療も行っております。また SpyGlass というディスポーザブル細径胆道鏡を用い、今まで内視鏡的に除去することが困難であった巨大結石や破砕困難な硬い結石なども SpyGlass と EHL（電気水圧衝撃波結石破砕術）を用いて除去できるようになりました。SpyGlass は胆管癌・膵癌・原因不明の胆膵管狭窄の診断にも有用です。

消化器内視鏡：2023 年度は約 11,500 件の消化器内視鏡検査・治療を行いました。平素より通常のスクリーニング検査をはじめ、上記の通り内視鏡治療として食道・胃・大腸の早期癌に対する ESD、GERD に対する ARMS、食道胃静脈瘤に対する EVL・EIS、胆膵疾患に対する ERCP・EUS・EUS-FNA・EUS-BD・SpyGlass、消化管・胆管メタリックステント留置術などの専門的かつ高度な治療を幅広く行っております。

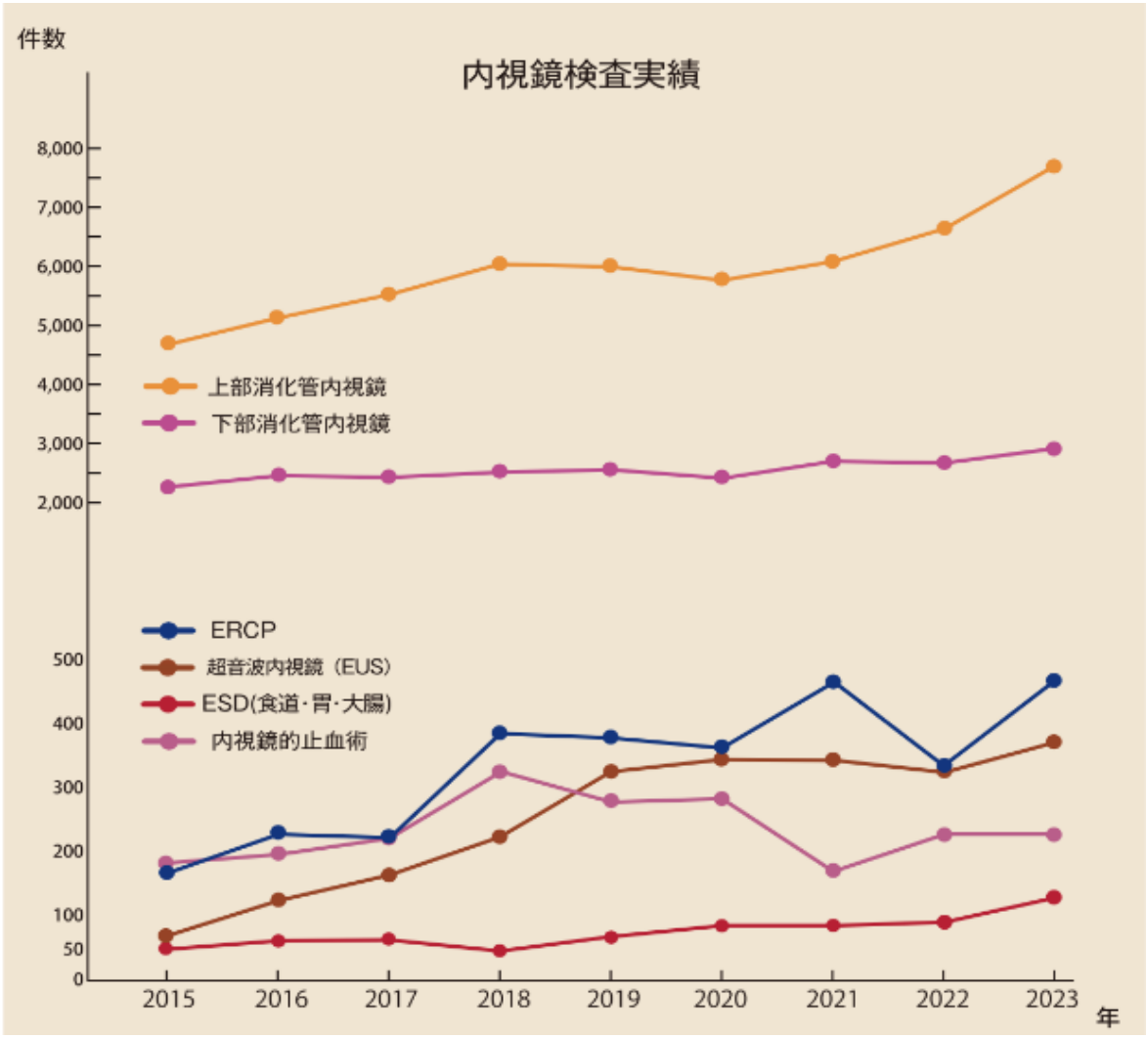
緊急体制：24 時間 365 日、緊急内視鏡ホットラインで救急隊や近隣の病院・医院と直接連携しており、消化管出血や消化管異物、S 状結腸軸捻転、急性胆管炎などの緊急内視鏡を要するような疾患に数多く対応しております。急性期病院であり「断らない救急」をモットーにしている当院の性格上、吐下血/腹痛を主訴とした消化管出血/急性腹症などの緊急疾患が救急車で多く運ばれてきます。特に消化管出血の救急搬送は大阪市で No.1 です。緊急腹部疾患に対して、当院の特長である科同士の連携の良さを活かし、消化器内科/消化器外科/急性腹症科が連携してチーム医療を行い、緊急処置/内視鏡治療/手術などを行っています。

【特 色・トピックス】

多数の専門外来（低侵襲がん内視鏡治療外来、胆膵内視鏡外来、潰瘍性大腸炎外来）を開設しており、幅広い患者様に高度に専門化した診療を提供しております。
苦痛のない内視鏡検査を目指しており、上部は嘔吐反射の少ない経鼻内視鏡による胃カメラや鎮静剤と鎮痛剤を併用した検査を行っています。大腸も鎮静剤と鎮痛剤の併用、UPD、さらに「浸水法」と高い内視鏡操作技術による無痛の大腸内視鏡検査を提供しています。
消化管早期癌に力を入れており、NBI や色素を併用した拡大内視鏡検査や超音波内視鏡(EUS)を用いた精度の高い診断から、高度な技術を要する ESD による内視鏡的早期癌切除を重篤な偶発症なく安全に行っております。
胃食道逆流症(GERD)に対する新しい内視鏡治療(ARMS)を 2023 年度より始めました。PPI/PCAB 抵抗性あるいは依存性の GERD 患者さんの弛んだ食道胃接合部を締める治療で逆流を改善させます。内視鏡治療であるため体表にメスを入れることなく低侵襲に治療ができます。
膵癌の早期発見に注力しており、2023 年度からは TANE-P プロジェクトと称し、大阪市西エリアの膵癌予後を向上すべく様々な取り組みを行っております。（市民や医療従事者・機関への啓蒙活動、膵癌ハイリスクチェックリストやポスターの配布など）
潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療を生物学的製剤、分子標的治療薬、CAP 療法などの専門的治療も含め行っております。
胆膵疾患に対する検査・治療（ERCP 関連手技）も得意分野であり、緊急胆管ドレナージ・総胆管結石除去・膵管内結石治療・胆管癌/膵癌に対する精査および減黄治療を中心に行っております。SpyGlass と呼ばれるわずか径 3mm のディスポーザブル胆道鏡も導入しているため、通常内視鏡的に除去することが困難な胆管結石も SpyGlass＋EHL(電気水圧衝撃波)を用いて治療できるようになっております。胆管癌や膵癌の早期発見や精密診断の目的にコンベックス EUS を用いた観察や EUS-FNA（超音波内視鏡ガイド下-穿刺細胞診・組織診）も行っており、また interventional EUS として EUS-BD（超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ：消化管-胆道瘻孔形成術）も行っております。
上下部内視鏡検査でも出血源を同定できない消化化出血やクローン病などに対する小腸カプセル内視鏡や小腸バルーン内視鏡検査・治療も行っております。また同内視鏡は消化器手術後の特異な解剖（Roux en-Y 法再建、Bilroth-II 法再建、膵頭十二指腸切除後）を有する患者様に対する従来困難であった ERCP を可能にし、以前は手術が必要であった患者様に低侵襲な治療を提供できております。
外来においては初診時には可能な限りその日に診断できるよう心がけています。また待機の検査日程も患者様のご都合を最大限考慮し短期間で診断までつけられるよう意識しております。治療については病状に対してだけでなく、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を考慮し治療方法を決定しております。
消化器内科・外科合同カンファレンスや合同回診など、消化器外科との連携が良いことも大きな特徴の一つであり、診断から治療まで常に最善の医療を最善のタイミングで患者様に提供できるよう多角的に診療を行っております。

＜次年度方針・将来展望・目的・目標＞
当院は以前より上下部消化管内視鏡検査において患者様の苦痛を最小限にするべく努力をして参りました。一方で消化管癌に対する ESD や、胆膵領域における超音波内視鏡や胆道鏡（SpyGlass）を用いた高度な検査・治療にも力を入れてきました。2022 年度は癌研有明病院へ国内留学し消化管癌診療を学んだ医師も消化器内科チームへ戻り、2023 年度からは国立がんセンター中央病院へ国内留学していた胆膵を専門とする医師も戻り消化器内科の診療能力はより一層強化されました。従来から力を入れている ESD や ERCP,EUS に加え、膵癌の早期発見、ARMS、IBD に力を入れてまいります。今後も、消化器外科・消化器内科・放射線科・腫瘍内科・緩和ケア科が協力しながら、低侵襲・高 QOL な治療をベストのタイミングで患者様に提供し続けます。

【診 療・部署実績】


内視鏡検査実績
件数
8,000
7,000
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
上部消化管内視鏡
下部消化管内視鏡
500
400
300
200
100
50
0
ERCP
超音波内視鏡（EUS）
ESD(食道・胃・大腸)
内視鏡的止血術
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
年

◆脳神経内科

【部署概要】

脳卒中、てんかん、髄膜脳炎などの神経救急疾患を中心に、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの慢性疾患を含めて神経疾患全般にわたって診療を行っている。特に脳卒中症例は、24 時間 365 日体制で脳神経外科と共同で神経・脳卒中センターを運営しており、脳神経内科は主に虚血性脳卒中(脳梗塞、一過性脳虚血発作)の入院診療を担当している。リハビリテーション科・看護師や MSW などのコメディカル・多根脳神経リハビリテーション病院・多根第二病院と連携し、急性期だけでなく回復期リハビリテーションや慢性期まで含めた診療を行っている。一般外来は、完全予約制で、月曜日から金曜日まで行っており、他病院からの紹介や他科からの診察依頼に対しては適宜対応している。

【診 療・部署体制】

【スタッフ一覧】
学術顧問：柳原　武彦
脳神経内科部長：白石　翔一
脳神経内科副部長：吉田　智子
脳神経内科医長：北村　絵未
脳神経内科医長：田中　なつき
脳神経内科医員：江並　朋美
脳神経内科医員：小玉　大地
脳神経内科医員：國方　桃代
脳神経内科医員：仲辻　有佑

【特 色・トピックス】

当科の入院症例は、脳血管障害、てんかん、片頭痛、めまいなどの機能性疾患、髄膜炎・脳炎などの感染性疾患、といった神経救急疾患が大半を占めている。その中で、脳卒中診療は超急性期から回復期までの診療に携わっている。発症直後の急性期血行再建療法は積極的に行っており、rt-PA 静注療法や血管内治療も多数行っている。状態が安定した後も、回復期リハビリテーションの適応がある症例は大多数が多根脳神経リハビリテーション病院で、療養型病院の適応がある症例は一部が多根第二病院で対応できるため、脳卒中診療の全ての経過を網羅することができる。

【診 療・部署実績】

外来患者延数…5,347 人　　入院患者延数…10,568 人

◆外 科

【部署概要】

一般外来は、午前診 9：00～11：30（月～土曜日）、午後診 13：00～15：00（水曜日）で、日帰り手術センター外来（月、火、水、金曜日）も行なっている。手術日は月～土曜日毎日であるが、救急病院であるため昼夜を問わず緊急手術に対応している。また疾患別にグループを作り、幅広い知識の習得と最新の治療に対応している。

【診 療・部署体制】

上部消化管(森)
下部消化管（小川淳宏、小川稔、久戸瀬）
肝胆膵（細田）
乳腺、内分泌（西）
日帰り手術（丹羽、上村）

【特 色・トピックス】

2023 年度の異動は 4 月より福田雄介、大竹弘泰が専攻医として加わった。8 月より外科副部長の廣岡紀文が多根第二病院に転出した。2024 年 1 月には国立がんセンター中央病院に出向していた久戸瀬洋三が外科医長として着任した。
本年度も消化器外科手術件数は 1,434 件と大阪大学消化器外科関連施設のなかで最も手術症例数の多い施設となった。なかでも鏡視下手術の件数が年間 649 件と非常に多いのも特長である。
急性腹症患者については他施設にない急性腹症科を設置して、経験豊富なスタッフが 365 日 24 時間体制で緊急手術を行っている。救急隊との間に急性腹症ホットラインからを設け、大阪市全域より急性腹症患者の受け入れを行っている。鏡視下手術に熟練したスタッフが多く、夜間の緊急でも積極的に鏡視下手術を行っている。
大阪府がん診療拠点病院として、悪性腫瘍の手術も多数行っている。胃癌、大腸癌については腹腔鏡下手術を積極的にとりいれている。さらに大腸癌では 2023 年 12 月よりロボット支援下手術を導入した。特に直腸癌では、ほぼ全例をロボット支援下で手術を行っている。肝胆膵領域では膵癌の手術の手術件数が急速に増加している。
日帰り手術については「日帰り手術センター」の頁を参照していただきたい。
また、手術だけでなく、教育、研究にも力を入れており、1 年を通して多数の初期研修医、後期研修医が当科で研修を行っている。また、学会発表、論文執筆もスタッフ、後期研修医から初期研修医に至るまで多数行っており、国際学会での発表も行っている。
民間病院としては希な、多数かつ専門性の高いスタッフが揃っており、今後も大阪市西部ブロックの基幹病院として、より多くの症例を受け入れていきたい。

【診 療・部署実績】

分類	項目	症例数
A	消化器外科手術症例数	1434
A-1	そのうち全身麻酔による手術症例数	1319
A-2	そのうち全身麻酔以外による手術症例数	115
A-LAP	腹腔鏡（胸腔鏡）手術症例数（分類 A のうち、原疾患を問わず）	649
B	食道	8
B-1	食道癌（接合部癌扁平上皮癌含む）	2
B-1-1	頚部食道切除	0
B-1-2	胸部食道切除	2
B-1-2-OPN	開胸	2
B-5	食道その他	6
C	胃・十二指腸（※十二指腸乳頭部癌は胆道癌へ）	64
C-1	胃癌	40
C-1-1	胃全摘	11
C-1-1-OPN	開腹	11
C-1-2	幽門側胃切除（PPG、分節切除含む）	19
C-1-2-OPN	開腹	14
C-1-2-LAP	腹腔鏡	5
C-1-3	噴門側胃切除	5
C-1-3-OPN	開腹	3
C-1-3-LAP	腹腔鏡	2
C-1-5	その他胃癌手術（バイパス／審査腹腔鏡など、開腹／腹腔鏡を問わず）	5
C-2	十二指腸癌（開腹／腹腔鏡を問わず）	2
C-3	胃・十二指腸 GIST（開腹／腹腔鏡を問わず）	5
C-5	胃・十二指腸その他（潰瘍／病的肥満／胃瘻など、開腹／腹腔鏡を問わず）	17
D	小腸・大腸・肛門	475
D-1	結腸癌	93
D-1-1	切除術	82
D-1-1-OPN	開腹	17
D-1-1-LAP	腹腔鏡（RPS を除く）	65
D-1-2	非切除（人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど）	11
D-2	直腸癌（肛門癌含む）	47
D-2-1	切除術（肛門温存）	24
D-2-1-OPN	開腹	3
D-2-1-LAP	腹腔鏡（RPS を除く）	20
D-2-1-RPS	RPS（単孔式を含む）	0
D-2-1-ROBOT	ロボット	1
D-2-1-Other	その他	0

D-2-2	切断術（肛門非温存）	4
D-2-2-OPN	開腹	0
D-2-2-LAP	腹腔鏡（RPS を除く）	4
D-2-2-RPS	RPS（単孔式を含む）	0
D-2-2-ROBOT	ロボット	0
D-2-2-Other	その他	0
D-2-3	局所切除　（経肛門切除、TEM）	1
D-2-4	非切除（人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど）	18
D-3	大腸 GIST（開腹／腹腔鏡を問わず）	0
D-4	大腸粘膜下腫瘍（GIST 以外、開腹／腹腔鏡を問わず）	0
D-5	小腸癌（開腹／腹腔鏡を問わず）	2
D-6	小腸 GIST（開腹／腹腔鏡を問わず）	1
D-7	小腸粘膜下腫瘍（GIST 以外、開腹／腹腔鏡を問わず）	1
D-8	虫垂炎（開腹／腹腔鏡を問わず）	155
D-8-OPN	開腹	4
D-8-LAP	腹腔鏡（単孔式、RPS を含む）	151
D-9	イレウス（開腹／腹腔鏡を問わず）	75
D-10	潰瘍性大腸炎（開腹／腹腔鏡を問わず）	1
D-10-1	切除術	1
D-10-1-OPN	開腹	0
D-10-1-LAP	腹腔鏡（単孔式、RPS を含む）	1
D-10-2	その他	
D-11	クローン病（開腹／腹腔鏡を問わず）	0
D-11-1	切除術	0
D-11-1-OPN	開腹	0
D-11-1-LAP	腹腔鏡（単孔式、RPS を含む）	0
D-11-2	その他	0
D-12	痔核	59
D-13	痔瘻	4
D-14	結腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	23
D-15	直腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	11
D-16	肛門その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	1
D-17	小腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	2
E	肝・胆・膵	327
E-2	胆管細胞癌	2
E-2-3	肝区域切除	1
E-2-3-OPN	開腹	1
E-2-8	非切除（バイパス・審査腹腔鏡など）	1
E-3	転移性肝癌	11

E-3-1	肝切除と膵頭十二指腸切除の併施（HPD）	0
E-3-3	肝区域切除	1
E-3-3-OPN	開腹	1
E-3-4	肝亜区域切除	2
E-3-4-OPN	開腹	2
E-3-5	肝部分切除	8
E-3-5-OPN	開腹	6
E-3-5-LAP	腹腔鏡	2
E-4	胆嚢癌	4
E-4-5	肝部分切除（拡大胆摘を含む）	1
E-4-5-OPN	開腹	1
E-4-7	胆摘	1
E-4-7-OPN	開腹	1
E-4-9	非切除（バイパス・審査腹腔鏡など）	2
E-5	肝門部領域胆管癌	1
E-5-2	肝葉切除／肝三区域切除	1
E-5-2-OPN	開腹	1
E-6	遠位胆管癌（中下部胆管癌）	3
E-6-1	膵頭十二指腸切除	3
E-6-1-OPN	開腹	3
E-7	十二指腸乳頭部癌	2
E-7-1	膵頭十二指腸切除	2
E-7-1-OPN	開腹	2
E-8	膵管癌	10
E-8-1	膵頭十二指腸切除	2
E-8-1-OPN	開腹	2
E-8-2	尾側膵切除	3
E-8-2-OPN	開腹	3
E-8-3	その他切除術	1
E-8-3-OPN	開腹	1
E-8-4	非切除（バイパス・審査腹腔鏡など）	4
E-11	胆石症・胆嚢炎・胆嚢ポリープなど	287
E-11-OPN	開腹胆石症手術	7
E-11-LAP	腹腔鏡下胆石症手術（単孔式、RPS を含む）	280
E-14	肝胆膵その他	7
E-14-OPN	開腹	2
E-14-LAP	腹腔鏡	5
E-LOB	肝葉切除／肝三区域切除（原疾患を問わず）	2
E-SEG	肝区域切除（原疾患を問わず）	2

E-SUB	肝亜区域切除（原疾患を問わず）	2
E-PD	膵頭十二指腸切除（原疾患を問わず）	7
E-DP	尾側膵切除（原疾患を問わず）	4
G	ヘルニア（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど）	425
G-OPN	開腹ヘルニア根治術	422
G-LAP	腹腔鏡下ヘルニア根治術	3
H	腹膜炎・その他	130
X	他科手術	5

◆緩和医療科

【部署概要】

緩和医療科は悪性疾患による身体的・精神的な苦痛を和らげ、患者と家族の生活の質(QOL）を向上させることを目標とし、治療の初期段階からさまざまなケアをチームで提供します。
1）専門外来　2）一般病棟（がんサポートチーム：緩和ケアチーム）　3）緩和ケア病棟で診療に当たります。
さらに、在宅医と連携することで切れ目のない緩和ケアを提供します。

【診 療・部署体制】

1）外来：緩和ケア病棟面談（月曜日：午前、木曜日：午前・午後）
　　再診ならびに院内初診（金曜日：午前・午後）
　　入院患者は随時対応します
2）一般病棟：がんサポートチーム（緩和ケアチーム）
　　身体症状担当：石丸、和田
　　精神症状担当：柄池
　　看護師：2 名、薬剤師：3 名
3）緩和ケア病棟：20 床

【特 色・トピックス】

2022 年末で緩和ケア病棟担当医師が不在となりましたが、2023 年 4 月より石丸が赴任し緩和医療科を立ち上げました。2024 年 4 月からは和田が加わり緩和医療科 2 人体制となり、精神科柄池医師とともに外来、一般病棟、緩和ケア病棟での診療を行っています。
和田は放射線治療専門医として緩和的放射線治療を外来、入院を問わず積極的に取り入れています。
また、大阪府がん拠点病院として緩和ケア研修会（PEACE プロジェクト）を年に一度開催しています。
緩和ケア病棟を持つ急性期病院が地域において果たすべき役割を院内で共有し、救急診療科・外科・消化器内科などの協力体制のもとで、がん進行期・終末期の緩和ケアを必要とする患者の救急要請に 24 時間・365 日対応しています。

【診 療・部署実績】

緩和医療科外来患者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診	15	15	19	21	19	17	17	17	20	18	21	20
再診	15	13	16	17	18	25	20	14	19	16	15	19

緩和ケアチーム介入数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介入人数	20	16	22	11	22	16	16	13	17	20	15	15

緩和ケア病棟患者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院数	12	14	18	13	17	13	17	16	16	24	13	14
退院数	31	34	24	30	22	27	30	19	38	24	22	21

◆整形外科

【部署概要】

整形外科では骨折や靭帯損傷など一般的な外傷、スポーツ愛好家からハイレベルアスリートまで幅広いスポーツ障害、年齢を重ねるごとに痛みが出てくる腰や関節の変性疾患、骨粗鬆症等に対して治療を行っています。

【診 療・部署体制】

〈 外 来 〉

2023 年度は 1 ヶ月平均 1,125 名、1 日平均 53.8 名でありました。受付時間は午前 10 時までとなっております。書類記入補助などの業務も加わって、外来の待ち時間が比較的短くなりました。

〈 入 院 〉

2023 年度は 1 日平均 29 名であり、平均在院日数は 15 日でありました。予定入院の増加や、MSW の協力により比較的短期の入院が多くなってきています。現状を継続したいと思います。

〈 手 術 〉

2023 年度は 688 件の手術件数があり、1 ヶ月平均 57.3 件となりました。手術内容としては下記の通りの内訳となります。治療内容としてはあらゆる外傷に加え、スポーツや関節鏡手術が増えたものになっています。今後も学会・研究会等の発表、投稿に加え十分な知識・経験に基づく医療を発展させたいと考えています。

【特 色・トピックス】

専門外来として肩関節・肘関節の障害、肩・肘スポーツ障害を診療する『肩・肘・スポーツ外来』と、スポーツに関わる障害を体幹・下肢も含めて診療する『スポーツ外来』『人工関節(股・膝)外来』を行っております。

【診 療・部署実績】

2023 年手術実績

手術総数	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	その他
688	25	63	50	495	0	41	12	2	0

◆脳神経外科

【部署概要】

脳神経外科疾患には脳血管障害（脳卒中）、脳腫瘍、頭部外傷（神経外傷）、脊髄疾患、機能性疾患（顔面痙攣、三叉神経痛など）、小児脳神経外科疾患があるが、当科はほぼ全ての領域を網羅し診療を行っている。小児脳神経外科に対しては大阪医科薬科大学と連携し外来診療を行っている。
なかでも神経系救急疾患の多くを占める脳卒中において出血性血管障害は脳神経外科が、閉塞性血管障害は脳神経内科が主に診療を行っており、常時両科で情報を共有しつつ手術適応症例に対しては 24 時間体制で速やかに脳神経外科で対応している。

【診 療・部署体制】

常勤専門医 6 名、非常勤専門医 4 名の専門医合計 10 名で診療に携わっている。
救急搬入患者は原則救急診療科に初期診療を担って頂き、神経系疾患においては直ちに神経センターへ連携され、脳神経内科と協力し 365 日 24 時間体制での神経疾患患者の受け入れを実現している。また脳卒中ホットラインによる救急隊からの直接連絡受け入れ体制も敷いており、診断治療までの可能な限りの時間短縮を目指している。
外来診療は平日毎日行い、午前は月・火・木曜日を 2 診制、水・金曜日を 1 診制、午後は月・木曜日を 2 診制、他は 1 診制で行っている。原則予約患者を優先的に診療し、予約外患者も随時受け入れ診察を行っている。
入院診療は一人主治医制で行っているが、カンファレンスや全体回診にて各医員は全患者の状態把握に努め、治療方針や手術適応に関しては充分なカンファレンスのもとに決定している。
手術は月・木曜日の手術室枠を中心に予定手術を行っているが、緊急手術に対しては麻酔科、手術室および他診療科の協力のもと 24 時間体制で随時行っている。

【特 色・トピックス】

A）脳血管障害手術について

1）脳卒中センターを開設し、緊急手術を含めた 24 時間体制を敷いている。

2）患者安全を最優先し、病態に応じ開頭術などの外科的直達術、脳血管内手術、神経内視鏡手術などの選択が可能。

3）術中ナビゲーションシステム、MEP、SEP、ABR などの神経モニタリング、ICG 蛍光診断、低体温麻酔など脳保護において各種術中支援を活用している。

B）脳血管内治療について

1）大阪医科薬科大学脳神経外科・脳血管内治療科と連携し、応援医、指導医を招聘し手術を行う事で安全性を高めている。

2）頸動脈病変では、安全性を最優先し病態に応じ頸動脈内膜剥離術（CEA）、頚動脈ステント留置術（CAS）の選択が可能。

3）脳血管内治療後に開頭術が必要となった場合においても 24 時間対応が可能。

C）脳腫瘍手術について

1）臨床工学科と連携し画像支援としてナビゲーションシステム（BRAINLAB Elements®）、神経モニタリング（MEP、SEP、VEP、EMG、ABR、AMR など）、蛍光診断（5-ALA、fluorecein、ICG）などを駆使し、安全性の高い脳腫瘍手術を提供している。当院では画像支援装置、手術顕微鏡、手術室マルチ・モニター、高精度放射線治療システム等がネットワークで統合されており、術前の手術計画作成から実際の顕微鏡および内視鏡手術、術後の放射線治療計画、放射線照射までがひとつに統合された治療システム上で行われ、症例毎に機能温存と根治性を両立させたテイラーメイド治療が可能となっている。

2）脳腫瘍に対する針生検や、深部脳膿瘍に対する排膿術など定位的手法を要する手術に対しては BRAINLAB VarioGuide™を用いた高精度の定位手術が可能である。

3）下垂体腺腫などのトルコ鞍部腫瘍および経鼻アプローチが可能な下垂体近傍の頭蓋底手術に対しては 2005 年から顕微鏡に内視鏡を併用した手術を開始し、2008 年からは顕微鏡を用いない完全内視鏡手術に移行した。現在は手術及び周術期の管理も含めて耳鼻咽喉科と協同し、硬性内視鏡による経鼻的内視鏡下経蝶形骨洞手術（endoscopic endonasal TSS：eTSS）を行っている。

4）術後は疾患に応じた適切な後療法（放射線化学療法）の選択が可能である。化学療法においては脳悪性リンパ腫など全身アプローチを要する疾患の場合は腫瘍内科と連携して行い、照射治療においては放射線治療科と連携し高精度放射線治療装置（BRAINLAB 社、Novalis Tx）を用いた定位放射線療法（SRS、SRT）、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）など、最新の放射線照射治療を提供している。

D）頭部外傷手術について

頭部外傷全般に対応し、特に頭蓋内圧亢進を来す重症頭部外傷例においては外減圧処置のうえ脳圧計（ICP sensor）を留置し、厳密に脳圧コントロールを行って術後管理をしている。

近年穿頭を要する超緊急症例に対しては救急外来外傷センターでの穿頭術対応も行っている。

【診 療・部署実績】

2023 年度診療実績（脳神経外科）

総外来患者数・・・7,218 人／年度　　年間入院患者数・・・7,820 人／年度

2023 年　脳神経外科　全手術件数内訳（2023.1.1-2023.12.31）

脳神経外科的手術症例数 （2023年1～12月）		
脳神経外科的手術の総数		240
脳腫瘍	摘出術	12
	生検術 （開頭術）	1
	生検術 （定位手術）	2
	経蝶形骨洞手術	6
	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	2
	その他	0
脳血管障害	破裂動脈瘤	13
	未破裂動脈瘤	4
	脳動静脈奇形	2
	頸動脈内膜剥離術	2
	バイパス手術	1
	高血圧性脳内出血 （開頭血腫除去術）	3
	高血圧性脳内出血 （定位手術）	0
	その他	4
外傷	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	5
	減圧開頭術	2
	慢性硬膜下血腫	47
	その他	2
奇形	頭蓋・脳	0
	脊髄・脊椎	0
	その他	0
水頭症	脳室シャント術	5
	内視鏡手術	3
	その他	12
脊椎・脊髄	腫瘍	2
	動静脈奇形	0
	変性疾患（変形性脊椎症）	17
	変性疾患 （椎間板ヘルニア）	9
	変性疾患 （後縦靭帯骨化症）	0
	脊髄空洞症	0
	その他	1
機能的手術	てんかん	0
	不随意運動・頭痛症 （刺激術）	0
	不随意運動・頭痛症 （破壊術）	0
	脳神経減圧術	5
	その他	0
血管内手術	動脈瘤塞栓術 （破裂動脈瘤）	8
	動脈瘤塞栓術 （未破裂動脈瘤）	7
	動静脈奇形 （脳）	5
	動静脈奇形 （脊髄）	0
	閉塞性脳血管障害の総数	44
	（上記のうちステント使用例）	13
	その他	3
その他	上記の分類すべてに当てはまらない症例	8

◆小児科

【部署概要】

新生児から中学生までの一般小児疾患を対象としています。発熱、感染症などの急性疾患から、気管支喘息、食物アレルギーなどアレルギー疾患、起立性調節障害、夜尿、便秘、低身長など慢性疾患、育児相談、予防接種、乳幼児検診などを診療しています。入院診療は行っていませんが、小児の急性期・慢性期疾患に幅広く対応しています。小学生以上の児においては、外来で成長ホルモンの負荷試験を行っています。入院や、専門医の診療が必要な症例に関しては、地域医療連携室を通じて、専門の医療機関に紹介いたします。

【診 療・部署体制】

常勤の小児科医 1 名体制で、基本的には月～水曜日・金曜日の午前・午後(水曜午後は完全予約制の予防接種外来のみ)、常勤医が対応しています。

【特 色・トピックス】

総合病院の小児科として、院内各科と連携して、診療に当たっております。眼科病院の術前検査や、他科の乳幼児の血液検査などは、当科で処置を行なっています。
大阪市予防接種委託施設であり、定期接種及び、任意接種を行なっています。2022 年度からは BCG 接種も行っています。また、成人の麻疹・風疹などの抗体検査、及び肺炎球菌ワクチン以外の成人の予防接種も受け付けています。
大阪市の感染症動向調査小児科定点医療機関として、毎週、症例数を報告しています。
病院委託になっている 1 歳児健診（10 カ月健診）も行っています（要予約)。

【診 療・部署実績】

外来患者数（延べ）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	新来	25	28	36	29	34	33	34	22	24	24	36	21	346
	再来	27	32	42	25	42	30	33	47	43	26	32	26	405
	合計	52	60	78	54	76	63	67	69	67	50	68	47	751

主な予防接種実績（延べ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
四種混合	2	1	2	0	0	0	4	1	0	1	2	2	15
二種混合	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
ビフ	2	2	0	0	2	1	1	1	2	3	1	0	15
肺炎球菌	1	0	1	0	2	2	1	3	1	3	4	7	25
乾燥弱毒生麻疹風疹混合	2	0	3	1	0	0	1	1	0	1	0	2	11
日本脳炎	2	1	1	1	1	1	2	3	2	1	0	0	15
乾燥弱毒性おたふくかぜ	1	1	2	1	0	0	1	1	0	0	0	1	8
乾燥弱毒生水痘	2	1	2	2	1	0	5	2	0	2	2	1	20
ポリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	6
ロタ	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
成長ホルモン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	14	6	12	5	8	5	17	13	6	12	10	13	121

◆泌尿器科

【部署概要】

スタッフは細川幸成、橋村正哉、伊丹祥隆、飯田孝太および吉川貴之祐の 5 名の常勤医、全日手術日の月曜日は平尾佳彦の非常勤医で構成している。

【診療・部署体制】

外来診療は月曜日は 2 診体制、火曜日から土曜日の午前診は 3 診体制で、午後診は月は 2 診体制、火・水・木・金曜日は 3 診体制で行っている。
手術日は月曜日の全日、木曜日の午後、金曜日の午前に行っている。
体外衝撃波結石破砕術（以下、ESWL）は火、水および木曜日に全日で行っている。

【特 色・トピックス】

救急病院である性格上、早急な対応が迫られることが少なくない。そのため、診断から治療までが早いことが当院の特徴である。
また、日本泌尿器科学会 専門医教育施設であり、奈良県立医科大学　泌尿器科学教室の専門医取得までの後期研修および、専門医がさらに指導医を取得するまでの教育基幹としての役割を担っている。

【診 療・部署実績】

本年度の外来患者数は 13,570 名（昨年 14,373 名）、新患は 879 名（昨年 997 名）および紹介患者 300 名（昨年 251 名）であった。
本年度の入院患者数は 812 名（昨年 767 名）、平均在院日数は 7.5 日（昨年 7.1 日）であった。
体外衝撃波結石破砕術（以下、ESWL）は新規患者 65 名（昨年 62 名）であった。
論文は 4 編（内筆頭著者 4 件）であった。

◆皮膚科

【部署概要】

一般外来は平日の午前・午後で行っています。
他科入院中の患者を対象とした病棟対診手術は局所麻酔でも行える小手術を行っています。
入院加療については、全身状態が安定していて早期退院が見込める症例を対象に担当させて頂いています。
褥瘡回診（皮膚・排泄ケア認定看護師好岡主任と共に週 1 回）

【診 療・部署体制】

部長；中井大介
その他非常勤医師（火曜午前、金曜午前）

【特 色・トピックス】

皮膚科一般に可及的に対応する。重症度によっては他院への紹介も検討いたします。
難治性アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブ投与、難治性じんましんに対するオマリズマブ投与、腋窩多汗症に対するボツリヌス投与に対応しております。
男性型脱毛症に対しての内服加療（自費）、巻き爪に対するワイヤー治療（自費）を行っています。

【診療・部署実績】

年間外来延べ患者数:7,313 名　　初診患者数:1,216 名　　紹介患者数:165 名
入院実人数:20 名　　平均在院日数:6.9 日
皮膚生検:113 件
手術（皮膚腫瘍切除術:51 件　皮膚悪性腫瘍切除術:6 件　皮膚切開術:48 件）

◆耳鼻咽喉科

【部署概要】

当院耳鼻咽喉科で行っている診療に以下のようなものがあります。
1.上気道炎、めまい、感音難聴、顔面神経麻痺、鼻出血など、耳鼻咽喉科急性疾患に対する幅広い治療。
2.保存的治療に抵抗する副鼻腔炎、真菌性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎に対する手術治療。
3.薬物治療に抵抗するアレルギー性鼻炎、鼻中隔弯曲矯正に対する手術治療。
3.長期の薬物治療、生活指導が必要なメニエール病に対しての近年認可された中耳加圧療法を含めた治療。
4.良性発作性めまい症に対する臨床研究を含めた運動療法治療。
5.難治性の滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ留置、アデノイド切除手術。
6.嚥下障害に対して嚥下内視鏡検査による原因診断、また難治性の嚥下障害には誤嚥防止手術の喉頭全摘手術も行っています。
7.声帯ポリープ、浮腫性声帯に対する手術治療。
8.喉頭全摘出術後でボイスプロステーシスによるシャント発声を希望されている方に対するボイスプロステーシス留置術と術後管理。

【診 療・部署体制】

2023 年度は天津、大野、新たに加わった平山の 3 人体制で診療にあたりました。また、大野が耳鼻咽喉科専門医を取得致しました。外来は毎日 2−3 人体制で行い、手術日などは大阪公立大学、大阪医科薬科大学からの非常勤医師に応援を頂いています。外来診療では地域、患者さんから当科が主にどういった疾患を診ているかを御理解していただけるよう、専門外来の名前を挙げています。手術枠は水曜全日であり、1 日 1〜3 件の手術を行っています。
上記部署概要に記したことを中心としながら、他科との連携の点では以前より施行している下垂体、傍鞍部病変に対する経鼻内視鏡手術では脳神経外科の先生方と、めまい疾患では脳神経内科の先生方と、咽喉頭疾患では消化器内科の先生方と連携して診療を行っております。これからもきっこう会の一員として、他科、関連施設と連携しながら皆様のお役に立てればと考えております。

【特 色・トピックス】

耳鼻咽喉科医は大阪公立大学耳鼻咽喉科医局員から構成されています。当院は日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の専門医教育施設で、大阪公立大学耳鼻咽喉科専門研修プログラムにおける連携施設でもあり、耳鼻咽喉科専門医取得までの研修施設でもあります。
前年度との大きな違いの一つとして、三重大学の小林正佳准教授を指導医として招請し、日本鼻科学会認定手術指導医制度認可施設となったことが挙げられます。鼻副鼻腔疾患の内視鏡手術の普及に伴い、頭蓋底損傷、視機能障害などの合併症も多く報告されるようになってきました。これらの事情を鑑み、日本鼻科学会が鼻科手術をより安全確実に施行し、術式の標準化を目指し、後進の育成を図ることを目的として日本鼻科学会認定手術指導医制度を発足させました。学会の定める「手術件数が過去 2 年間に、鼻科手術 200 件以上（うち内視鏡下手術 100 件以上）を実施していること」との要件をクリアしての認可です。これには若見先生を始めとする形成外科の先生方が多くの顔面骨折、眼窩骨折症例の外科的手術を長らくされているおかげでもあります。
また変形性外鼻と鼻中隔弯曲症を合併し、整容面でのハンディキャップと機能的な鼻閉を伴う症例に対して、形成外科と合同で外鼻形成、内視鏡下鼻中隔弯曲矯正術を施行を始めております。外鼻変形に対してはもう諦めていたという患者さんが意外に多く、整容面、機能改善の手術により患者さんには満足いただけております。

【診 療・部署実績】

手術件数（※2023 年 1-12 月）

耳科手術	**計　70 件**
鼓室形成術	3
鼓膜チューブ挿入術	32
鼓膜形成術	1
乳突削開術	1
鼓膜切開術	27
外耳道形成術	2
先天性耳瘻管摘出術	4
鼻科手術	**計　205　件**
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	53
内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型（骨・軟骨手術))	35
内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型（下鼻甲介手術	70
下甲介粘膜レーザー焼灼術	36
経上顎洞的顎動脈結紮術	2
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2
経鼻的下垂体腫瘍摘出術	5
眼窩内腫瘍摘出術（深在性）	1
変形外鼻手術	1
口腔咽喉頭手術	**計　54 件**
扁桃摘出術	36
アデノイド切除術	14
喉頭微細手術	3
舌悪性腫瘍手術（切除）	1
頭頸部手術	**計　9 件**
頭頸部腫瘍摘出術	5
喉頭全摘出術	1
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	1
深頸部膿瘍切開術	2
扁桃周囲膿瘍切開術	4
気管切開術	6

注）口蓋扁桃摘出術、内視鏡下鼻内手術などのように、左右あるものは両側の場合は 2 例としてカウントした。

◆形成外科

【部署概要】

形成外科は頭の先から足先に至る外表面に現れる疾患はほぼ対象としており、「こんなものまで治療の対象になるのか」と驚かれることが多い科です。顔面であれば眼、鼻、耳、口すべてを対象とし、手足、胸、へそ、とにかく目に見えるものであればその変形や欠損を元の状態に近づけていくことを科の特徴としています。形成外科の疾患は基本的に外科的治療つまり手術を行い対応するものがほとんどです。手術というと怖がれられる方も多いと思いますが、使う器機や針はデリケートなものが多く、細い針を使用したり、最小限の皮膚切開で手術を行うなど患者様の不安を少なくし、手術をすることで得られることが多い結果となるよう、笑顔のまま治療が終了するよう努力して日々の診療を行っております。体の表面のことであれば気軽に当科までご相談ください。

【診 療・部署体制】

部長：若見　暁樹（わかみ さとき）
専門分野：顎顔面外科/眼形成/小児先天異常
資格・専門医・指導医等：大阪市立大学医学博士/大阪公立大学臨床教授/日本形成外科学会専門　　医・指導医/皮膚腫瘍外科指導専門医/小児形成外科分野指導医/乳房再建実施施設責任医師医員/乳房オンコプラスティックサージャリー専任医師/身体障害者福祉法第 15 条指定医（そしゃく機能障害）

医長：上野　真理恵（うえの　まりえ）
専門分野：形成外科一般
資格・専門医・指導医等：日本形成外科学会専門専門医

医員：福村 崇（ふくむら　たかし）
専門分野：形成外科一般

医員：鈴木 里咲（すずき　りさ）
専門分野：形成外科一般

医員：濵田 有里（はまだ　ゆり）
専門分野：形成外科一般

【特 色・トピックス】

2022 年 4 月よりスタッフ 5 名体制で運営しています。スタッフが増員されたことで幅広い領域の疾患に対応が可能となっております。眼科病院との連携も進み、眼瞼領域の手術が充実して参りました。

【診 療・部署実績】

新患者数：1,389 名　　入院患者数：346 名

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	251	0	251
腰麻・伝達麻酔での手技数	11	1	12
局所麻酔・その他での手技数	355	283	638
入院または全身麻酔の手技数計：617			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：284			
合計係数：759			

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	95	2	7		1	5	110
先天異常	54		29			6	89
腫瘍	37		70			245	352
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	19		19			3	41
難治性潰瘍	16	7	38			2	63
炎症・変性疾患	16	2	27			10	55
その他	10		165			12	187
Extra レーザー治療	2						2

◆歯　科

【部署概要】

入院中の患者、他科受診中(周術期等)の患者、職員を対象とした診療を中心として行っており、他に近隣歯科医院や施設等より紹介のあった有病者に対する治療（抜歯等）を実施しています。

【診 療・部署体制】

歯科部長：岡本美樹
非常勤歯科医師 1 名
歯科衛生士　3 名
月曜～金曜日　　9:00～11:30、13:00～16:00

【特 色・トピックス】

・一般の歯科治療：齲蝕治療、補綴修復、自費治療、義歯の作製・調整等
・歯周病治療：歯周ポケット測定、歯石・着色除去、ブラッシング指導等
・抜歯等の外科処置：開業医等からの紹介
・有病者に対する歯科治療
・周術期の口腔機能管理：手術前後及び化学療法中、緩和ケア中の患者を対象に実施
・BP 製剤等投与前の口腔内のチェック・投与中の管理
・入院中患者に対する口腔ケア：病棟担当衛生士を配置
・マウスピースの作製：歯ぎしり・顎関節症用、手術用等
・NST 回診に参加

【診 療・部署実績】

受診患者総数（名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
558	575	692	594	626	566	616	557	553	593	502	573	7005

◆麻酔科

【部署概要】

2023 年度は、新たに常勤医師 1 名と復職者 1 名となり常勤医 6 名と非常勤医 1 名で周術期管理をおこなった。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）蔓延による影響はなくなったが、総手術件数は 3,386 件と前年度より減少した。

【診 療・部署体制】

麻酔科部長：	棚橋識生	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医
副部長：	宋よんす	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔認定医
副部長：	坂口　豪	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医
副部長：	三馬　葵	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔専門医
副部長：	中川由紀子	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医
医長　：	柴田　梢	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔専門医
医員　：	岡田俊樹	厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医 専門医共通機構認定麻酔専門医

【特 色・トピックス】

ベテランの常勤医 1 名が加わったことで前年度からさらに安定した麻酔科手術室運営が可能となった。また棚橋医師が専門医共通機構認定麻酔専門医の資格を取得した。

【診 療・部署実績】

2023 年度は総手術件数 3,386 件、そのうち麻酔科管理症例は 2,758 件。全身麻酔件数 2,053 件、脊麻 702 件であった。緊急手術は 563 件であった。

手術時間最長は、脳外科の脳腫瘍に対する開頭摘出手術、手術時間は 47 時間 10 分で、麻酔時間は 51 時間 4 分であった。

◆放射線診断科

【部署概要】

・総合病院の一般撮影、CT・MRI・RI、骨塩定量・マンモグラフィ・X線透視・血管造影（IVR）脳神経リハビリ病院の一般撮影を常勤放射線科医師 4 名と非常勤医師、診療放射線技師 19 名で担当している。
・夜間当直を 1 人体制とオンコール対応で行い、一般撮影・CT・MRI・心臓血管撮影・頭部及び腹部血管撮影・血管内手術・エックス線 TV 等の緊急検査にも対応している。

【診 療・部署体制】

放射線診断部
部長：松尾　良一／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医
部長：濱澤　良将／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本核医学会専門医、PET 核医学認定医、大阪市立大学医学部博士
副部長：谷口　明繁／日本医学放射線学会放射線診断専門医
副部長：池本　美奈子／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本医学放射線学会指導医、検診マンモグラフィ読影認定医

【特 色・トピックス】

マンモグラフィ関連
- ・女性診療放射線技師が 7 名になったので、マンモグラフィ検査は女性技師が担当するように体制を整えた。
- ・乳腺外科ができたことで撮影件数が増加した。
- ・多根クリニックの女性スタッフが休暇の際、総合病院放射線科からマンモ業務に行く体制にした。

MRI 関連
- ・当直帯で救急の検査を行うことで、日勤帯の病棟検査待ちが減少した。
- ・当日至急をすべて受け入れて検査を行った。
- ・病棟の患者は看護師と連携を密にし、検査時間を指定する事で、全体の検査を効率よく行うことが出来た。
- ・検査内容を医師と検討して 1 検査あたりの撮影時間を短縮させることが出来た。
- ・MRI 夜診検査業務を行うことにより外来検査待ちが減少した。

ＣＴ関連
- ・単純 CT のみ予約をオープンにした。
- ・予約枠に AM 枠、PM 枠を設けた。
- ・入院患者の CT 検査を 1 階救急用 CT で撮影する事にした。結果、3 階 CT 検査での待ち時間が減少した。
- ・入院患者当日撮影時間を始業前に決め、病棟への連絡を最小限にした。
- ・可能な限り当日依頼の造影 CT を受け入れた。
- ・救急ＣＴが毎年増加している。

医療安全対策
- ・部署内にヒヤリ・ハットを更に周知徹底させ報告書を提出する努力を行った。
- ・インシデントが発生した場合はカンファレンスシートを用いて、速やかに対策を検討して問題解決をはかりスタッフに周知した。
- ・放射線技師接遇規範を見直し、周知徹底して患者様に接した。

業務改善
- ・造影剤同意書・問診表を更新した。
- ・定期的に看護師や他部署等と話し合いを行い日常業務がスムーズに行えるようにする。
  また問題発生時には、看護部連絡会及び業務改善委員会等で早期に解決する。

・単純撮影業務において、病棟患者の検査時間を指定する事で、全体の検査を効率よく行うことが出来た。
・手術室で毎日外科用イメージ業務を行うようにした。
・診療放射線技師の業務拡大に伴い、造影検査後の抜針を技師も行う体制にした。

教育
・学会、研修会に積極的に参加して、スキルアップを行った。
・定期的勉強会等を行い技術の向上を図った。

コスト削減
・当科で修理して使用できる物は、できる限り修理を行った。
・使用していない検査室の照明及び空調の電源は、細目に切り節電に心がけるようにした。

実習生の受け入れ
・4 施設の教育実習施設として指導を行った。

【診 療・部署実績】

		2023 年度	2022 年度	2021 年度
検査件数 2023 年 4 月 ～2024 年 3 月	一般撮影	**２６，３３３**	２７，４６４	２６，９４１
	ポータブル撮影	**７，９４９**	８，８５５	８，９５９
	上部消化管	**２**	２	２
	下部消化管	**０**	０	０
	エックス線ＴＶ	**１，２７１**	１，２９３	８３３
	乳房撮影	**６１２**	５６９	５８９
	骨塩定量	**３２６**	３７２	３７５
	頭部血管撮影	**１９１**	１６２	１３１
	腹部血管撮影	**２２**	２９	２３
	心臓血管撮影	**２４７**	２２４	２５５
	Ｃ　　Ｔ	**３０，９２３**	３１，２０８	２８，０２８
	Ｍ　Ｒ　Ｉ	**７，４１３**	７，９５５	７，７２６
	Ｒ　　Ｉ	**２８５**	３０２	２９９

◆放射線治療科

【部署概要】

【医師および全体】

高精度放射線治療（IMRT、定位照射）を中心に年間約 250 件の治療を行った。他院では実施が困難な症例においても、エビデンスや十分な文献的考察に基づいた放射線治療を実践している。そのため、半数以上が他院からの紹介患者となっている。なお、安全かつ高精度の放射線治療を推進することを目的として、一定の基準を満たす施設を日本放射線腫瘍学会は認定施設としているが、当施設は 2017 年 4 月より同施設認定を受けている。

医師の初回診察時に治療方針が決定されるが、個々の患者にとって最適な放射線治療を提供できるよう、十分な説明の後に患者の意思決定がなされるよう特に配慮している。この初回診察時から、患者の不安軽減のために、看護師による介入も行われる。治療計画は医師・診療放射線技師により行われ、複数回の確認作業を経ることにより最適化している。診療放射線技師や医学物理士は治療成績に直結する日々の照射精度を担保するとともに、照射時の患者の精神的・肉体的苦痛の軽減に努めている。治療期間中には医師の定期診察や看護師の定期面談を行っているが、治療終了後にも医師やがん放射線療法看護認定看護師による継続的な経過観察を行い、治療効果判定や副作用に対する早期介入を行っている。これらの過程は、患者の QOL を保ち局所制御を得ることに役立っている。

診療部、看護部、医療技術部、管理部の各職種が共通の放射線治療業務フローに則って行動しているが、明文化された内容以外にも各職種間で補完しながら業務を行っている。また、業務フローは双方向性であるためにスタッフ一人ひとりのコミュニケーションが重要な部署である。円滑な情報共有を行うために、各職種が参加する週 1 回の業務カンファレンスならびに症例カンファレンスを行っている。

【医療技術部門】

- 毎日放射線治療に通う患者さんに対し、接遇を大切にしながら正確な照射を行っている。
- 装置の品質管理に努め、高い治療精度を維持しながらダウンタイムを極力抑えるために QA/QC を継続的に実施している。
- 高精度放射線治療の治療計画の実施およびサポートを行っている。
- 機械学習ソフトを活用した治療計画の作成を行っている。
- 複雑化する治療計画に対して安全に治療が行われるか物理的視点から考察し、必要があれば医師とディスカッションを行っている。
- 安全に治療が行われるよう、MU 値の独立計算や 3 次元線量検証システムを用いた患者体内線量分布予測を行い、作成された治療計画の安全性を保証している。
- 照射技術・知識の自己研鑽のため、論文投稿や学会・研究会への参加・発表を積極的に行っている。

【看護師】

がん放射線療法看護認定看護師が、治療科専従看護師として 1 人体制で治療科における全診察業務、照射業務を担当しながら全患者さんの治療が安全・安楽かつ最小限の有害事象で予定された治療を完遂できるようサポートを行っている。また専従看護師が、外来患者さんの日々の体調確認および治療を安全・安楽に受けることができるよう照射担当診療放射線技師と連携しながらその日の記録を残すことで外来照射診療料の算定を行っている。専従看護師不在時は、他の照射担当看護師および照射担当診療放射線技師への事前の申し送り、医師事務作業補助者へ診察業務の後日面談対応を依頼しながら不在時の現場調整を行っている。

【医師事務作業補助者】
医師の診療補助（オーダー入力・管理・診断書作成）、治療センター内の患者情報管理及び伝達調整、カンファレンス、他院からの治療依頼調整、治療検査着の管理、診察や検査予約の調整

【診 療・部署体制】

【スタッフ】
＜医師＞
石井　健太郎　　部長
森本　英之　　副部長

＜診療放射線技師＞
川守田　龍　　技師長
中原　隆太　　係長
岸本　瞬　　主任
橋口　拓実
吉川　雅樹
郡田　遥士
岡村　徳高
古館　奈津希
中坂　優太

【特 色・トピックス】

【医師】
・日本の現状では高精度治療の利点が十分に患者に還元されているとはいい難い。当院では専門的知識に基づき、安全面に十分配慮したうえで、従来一般的に用いられているよりも幅広く高精度治療を実施し、その成績を国内外の学会・論文等で報告している。
・自由診療による高精度放射線治療を実践している。
・放射線治療専門医が 2 名在籍していることは、施設基準を満たすためのみならず、高精度治療を迅速に実施していくために今後も必要である。

【医療技術部門】
- 高度化する医療に対応するために Deformable Image Registration を使用したマルチモダリティの融合画像の作成や過去の線量分布の合算を行い、より適切な治療計画の作成に参画している。
- 複雑化する照射方法に対し、3 次元線量検証システムを用いて患者体内線量分布を予測し、安全に治療が行われることを保証している。
- 機械学習ソフトを用いて、より最適かつ効率的な治療計画の作成を行っている。
- 治療装置の使用から 10 年以上が経ち、各部品の経年劣化が見られるようになった。一方で寡分割照射の件数増加など、複雑化する治療技術に対して安全で精度の高い放射線治療を実施するために QA/QC を継続的に行っている。
-金属アーチファクトを軽減した治療計画用 CT 画像の提供を行い、より治療に有用な画像を提供している。
- キロボルトの X 線に対応した線量計を用い、各装置の被ばく線量を測定することにより医療被ばく管理を積極的に行っている。

【看護師】

・がん放射線療法看護認定看護師が特定行為研修を修了後、特定認定看護師として主に前立腺癌患者に対して脱水リスク評価を行いながら該当する患者においては手順書に沿って介入することで、治療中の膀胱尿量の再現性確保や医療被曝の低減に務めている。
・がん拠点病院として、がん放射線療法看護認定看護師が看護外来を開設しており、治療期間中および治療後の患者さんのフォローを医師と連携しながら行っている。

【医師事務作業補助者】
他職種や他科との連携とりながら、治療や診察をスムーズにすすめられる様にサポートをしている。

【診 療・部署実績】

2023 年度の照射件数は 3,474 件であり、うち 2,226 件（64%）が高精度放射線治療であった。その内訳は、IMRT が 1,904 件であり、定位照射が 322 件であった。
・上記の如く高精度治療の比重が高いことが当施設の特徴ではあるが、年度を通じて照射装置を高い精度下に管理することにより、安全に治療を実施できた。

◆救急科

【部署概要】

院内各科と協力し、救急患者対応を行っています。

【診 療・部署体制】

常勤医 3 名、非常勤医 1 名に専攻医（大阪大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム内ローテーション）及び初期臨床研修医で日勤帯の救急患者対応を行っています。

【特 色・トピックス】

各科協力の下、救急搬送を積極的に受け入れ、2023 年度は 8,668 件の救急搬送患者を受け入れました。

【診 療・部署実績】

救急搬送件数	8,668 件
ER 総受診患者数	17,342 人

◆腫瘍内科

【部署概要】

腫瘍内科では臓器横断的にがん薬物療法を中心に適切ながん治療を提供すべく各診療科、他職種と連携しながら診療を行っている。
2020 年 4 月にがん診療センターが新規オープンし、外来化学療法ベッドが 5 床から 15 床に増床した。また新たにアドバンス・ケア・プランニング外来を新設し、患者に合わせた最適な治療・療養方針を説明している。
がん薬物療法認定薬剤師による薬剤師外来を新設し、新規薬剤を用いた治療導入の際の服薬指導を行っている。
がん化学療法認定看護師によるがん薬物療法による有害事象、アピアランス・ケアなどを行っている。
がん専門看護師・乳がん看護認定看護師による全人的ケアの提供、特に乳がん患者への積極的ケアへの介入を行っている。
薬剤師外来のフォローは腫瘍内科で行っている。また、外来化学療法室での有害事象発生時に主治医とともに腫瘍内科で対応している。
2023 年 4 月からは腫瘍内科は常勤 2 名体制となり、腫瘍内科外来・入院症例のみならず、薬剤師外来や化学療法センターでの問題症例についてもカンファレンスで検討している。
最近ではがんゲノム医療の発展に伴い、家族性腫瘍・遺伝性腫瘍のコンサルト窓口を請け負っている。特に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するスクリーニング、遺伝カウンセリングを行っている。
がん関連学会の参加・発表、講演会、がん教育に積極的に関わっている。
がん薬物療法チームとして、治療方針の相談、有害事象に対する支持療法のアドバイスなども行っている。

【診 療・部署体制】

腫瘍内科・副部長　岡田佳也
常勤医師　北代紗也
がん薬物療法認定薬剤師・課長　其田学士
外来がん治療認定薬剤師・薬剤部主任　岩井裕香
がん化学療法看護認定看護師　久寶麻衣子
がん専門看護師・乳がん看護認定看護師　植村未奈子

【特 色・トピックス】

昨今がん診療の発展はめざましいが、その中心はがん薬物療法である。免疫チェックポイント阻害剤に代表される多種多様な薬剤が登場したことで治療の選択が広がっている一方、有害事象も複雑化し、支持療法の重要性が指摘されている。欧米では以前から Oncology（腫瘍学）が専門分野として確立されているが、本邦では Oncologist(臨床腫瘍医)は相対的に大変少ない。これらのことから年々がん薬物療法の専門家の需要が高まってきており腫瘍内科医に求められる期待は大きい。しかし一方、現状のがん薬物療法では治癒を望めるような成果は上げられておらず、従って緩和医療を早期から適切に実施していくことががん診療において大変重要である。当院においてもそれに従い、がん治療中から緩和医療を実践するべく腫瘍内科と緩和ケア内科はシームレスに診療を行っており、相互支援を行いつつ他職種も交えたがん診療の実践を行っている。
近年ではがんゲノム医療がトピックスとなっており、主に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群のスクリーニングを含めた遺伝カウンセリングを行っている。

【診 療・部署実績】

・腫瘍内科　外来件数（延べ人数）：　1,551 人
・腫瘍内科　外来化学療法加算件数：　652 件
・腫瘍内科　手術件数（ポート造設件数）：　41 件
・薬剤師外来件数　：　82 件

・化学療法センター治療件数　：　1,712 件

◆DS（日帰り手術）センター

【部署概要】

日帰り手術（短期滞在手術）は患者さんに多くのメリットのある治療方法である。
多根総合病院 DS（日帰り手術）センターは、全国に先駆けて 1998 年に開設した、日帰り手術を専門に行う施設で、2022 年 3 月末時点で約 41,627 例の治療実績である。特に日帰りでは難しいと言われる胆石や鼠経ヘルニアなど数多くの経験を持っておりこのうち約 99%の患者様が当日あるいは翌日に退院されている。2022 年 9 月より総室 6 床を夜間の E ルームとして運用することとなった。

【診 療・部署体制】

丹羽英記　統括院長/名誉センター長
小川　稔　院長
上村佳央　センター長
棚橋識生　副センター長
看護師　（消化器外科棟とローテーション）
クラーク

【特 色・トピックス】

＜基本方針＞
短期滞在専門施設として社会的ニーズに応え、質の高い医療を提供する
＜目標＞　患者満足度の高い接遇の実施
＜特色＞鼠径ヘルニア、胆石症手術、上下内視鏡検査・処置の症例維持
各科からの要望に応え、短期滞在治療に適した患者を受け入れる

【診 療・部署実績】

2023 年度件数　1,369 (1,720)件　（昨年度）
≪外科≫587 (788)件 ≪消化器内科≫314 (218)件 ≪泌尿器科≫158 (154)件 ≪整形外科≫6 (20)件 ≪形成外科≫227 (459)件 ≪耳鼻科≫64 (46)件 ≪皮膚科≫1 (13)件

当日退院：27.0 (41.5)%　1 泊入院：72.0　(54.1)%　2 泊以上入院：1.0 (1.4)%
病床稼働率：　75.0 (111)%

主な疾患数（昨年度）

≪外科≫

ソケイヘルニア 336 (415)	大腸ポリープ切除 49 (106)	大腸内視鏡検査 24 (56)
胆石・ポリープ 65 (85)	痔核 59 (43)	上下部内視鏡検査 31 (33)
虫垂炎 2 (12)	CVポート留置/抜去 13 (11)	

≪消化器内科≫

大腸ポリープ切除 137 (107)	上下部内視鏡検査 117 (36)	大腸内視鏡検査 33 (46)

≪形成外科≫

皮膚皮下腫瘍 280 (232)	眼瞼下垂 70 (121)	鼻骨骨折 25 (22)

≪泌尿器科≫

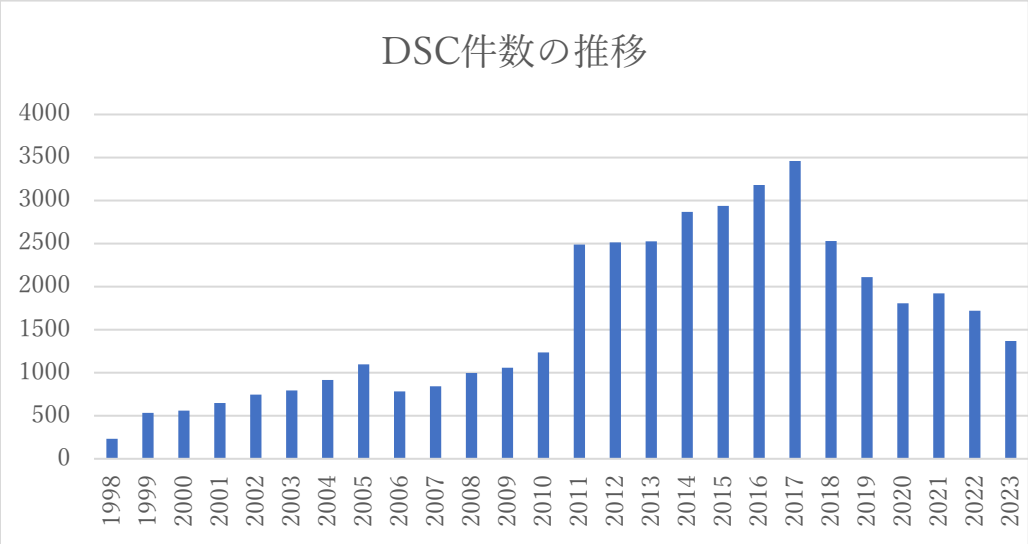
前立腺生検 91 (70)	尿路結石 46 (46)	包茎 10 (14)

≪耳鼻科≫

副鼻腔炎 18 (3)	滲出性中耳炎 12 (8)

≪整形外科≫

抜釘 2 (6)	経皮ピンニング 1 (5)



◆看護部

【部署概要・体 制】

病棟	診療体制	病棟	診療体制
ＤＳＣ	外科系・消化器内科等の日帰り、手術・短期滞在手術対象	10階	整形外科、形成外科、皮膚科
7階	消化器外科	11階	消化器内科
ＩＣＵ		12階	泌尿器科
8階	循環器内科	緩和	緩和ケア
8ＨＣＵ		手術室	
9階	脳神経外科・脳神経内科	救急外来	
9階ＨＣＵ		一般外来	

【特 色・トピックス】

1.トピックス

1)看護師特定行為研修開校式：5 月 6 日

2)認定看護管理者教育課程受講　ファーストレベル：藤井　愛子

セカンドレベル：萱原　良子

3)大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会：柳田舞、笹倉幸代、鳥屋原由子

4)特定行為研修区分別　栗山知弥・立花優樹・前田沙也佳・宮崎悠・中西紀彦

5)記念講演　「サーバント・リーダーシップを基軸とした看護管理者の育成とマネジメントの遂行」大崎和子

6)日本脳神経看護研究学会　評議員（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）應本勝美

7)医学書院　看護管理（第 33 巻第 5 号）現場から考えるサーバンドリーダーシップ座談会企画に協力　尾崎昭太

8)近畿厚生局　令和 5 年度　第 1 回看護師特定行為に係る説明会への講師派遣：中西紀彦

9)株式会社ケンコー　「地域連携の時代に求められる継ぎ目のないケアを考える」 ストーマケアの未来～理想的なチームケア～への講師派遣：好岡文葉

10)2023 年度多根総合病院 NST 専門療法士臨床実地修練：高橋佳也、竹本楓花

11)第 44 回関西ストーマケア講習会　ストーママーキング資格取得：倉田慧斗

12)公益社団法人大阪府看護協会　ストーマ・瘻孔のスキンケア　ストーママーキング資格取得：松本志保

13)2024 年度内定予定者インターンシップ（7/28・8/4・8/17・8/25）24 名参加

14)能登半島地震に係る石川県からの DMAT 派遣要請依頼　1/10～1/15　西口淑子　藤澤冬惟

15)関西ストーマケア講習会・関西 STOMA 研究会　実行委員派遣：好岡　文葉

16)多職種連携会「タネまきの会」医療法人かもめクリニック共催研修会開催　3/8

1)2023 年 4 月 30 日　　SOC レンタルセット記載欄を廃止

2)2023 年 6 月 1 日　　就業開始前後 5 分間を更衣時間とする

3)2023 年 6 月 2 日　　献立表の栄養科へタスクシフト

4)2023 年 6 月 29 日　　輸血投与前の医師とのダブルチェックを廃止

5)2023年6月14日　　SOCスタッフによるレンタルセット解約手続き開始

6)2023年7月3日　　病棟でMRI造影用のルート確保開始

7)2023年7月12日　　2025年病院機能評価受審のための勉強会開始

8)2023年9月1日　　CPRコール770へ変更

9)2023年9月19日　　DS病棟の退院処方を薬剤師から患者への手渡しを開始

10)2023年9月27日　　モバイル端末でのベッドコントロールを開始

11)2023年9 月30日　　新型コロナ確保病床終了

12)2023年10月1日　　重症個室（10床）追加申請

13)2023年10月1日　　新鮮凍結血漿検査科で溶解開始

14)2023年11月1日　　輸血バックを検査科で管理を開始

15)2023年11月1日　　ミトンの中央管理開始

16)2023年11月1日　　Eルーム入院患者の食事提供開始

17)2023年11月17日　　入院案内パンフレット一部改訂

18)2023年11月17日　　全個室へドライアー設置

19)2023年12月14日　　病床マップを用いたNAへの指示開始

20)2023年12月18日　　特殊物品　貸し出しBOX配置

21)2024年12月29日　　内視鏡検査、電話呼び出しの廃止（モバイル利用）

21)2024年1月17日　　障害者雇用の拡大　10F・11F病棟で看護補助者業務開始

22)2024年1月20日・27日　　ベッド80台入れ替え

23)2024年1月23日　　サーキュレーター9階・10階・12階特浴へ設置

24)2024年2月7日　　エアネス（空気清浄器）ME管理開始

25)2024年4月1日　　離床センサーME管理開始

2.学校講師・講義

1)学校法人大阪滋慶学園　大阪医療看護専門学校　国際看護・災害看護:中西紀彦

2)大精協看護専門学校　2023年度災害看護2年生（44期生）:中西紀彦

3)大阪府病院協会看護専門学校　成人看護学Ⅰ:植村未奈子

4)大阪府病院協会看護専門学校　成人を支える看護Ⅰ:有地正人

5)大阪府病院協会看護専門学校　成人を支える看護Ⅰ:米谷晶子

6)九州保健福祉大学　看護学概論（2024.1/20・1/26・1/27):米倉修司

3.日本看護協会・大阪府看護協会講師

1)公益社団法人日本医療機能評価機構　看護サイベイヤーOJT訪問審査：大崎和子

2)公益社団法人日本看護協会　高齢者虐待防止や権利擁護に関する意見交換
地域連携状況についての共有、演習（2023.11.17・12.21):仲由紀子

3)公益社団法人大阪府看護協会　防災・災害看護委員（2023年4月1日～2025年3月31日）中西紀彦

4)公益社団法人大阪府看護協会　2023年度クリティカルケア認定看護師教育課程講師派遣：中西紀彦

5)公益社団法人大阪府看護協会　令和5年度災害支援ナース養成研修の講義派遣：中西紀彦

6)公益社団法人大阪府看護協会　2023年度研修特定行為研修共通科目フィジカルアセスメントへの演習ファシリデーター：中西　紀彦

7)公益社団法人大阪府看護協会　第 54 回（2023 年度）日本看護学会学術集会交流集会講師派遣：應本勝美

8)公益社団法人大阪府看護協会　2023 年度クリティカルケア認定看護師教育課程臨地実習派遣：米倉修司

9)公益社団法人大阪府看護協会　2023 年 1/29～2/29 度感染管理認定看護師教育課程臨地実習受け入れ：宮崎悠

10)公益社団法人大阪府看護協会 2024 年 3 月 7 日　「まちの保健室」相談員　應本勝美

11)公益社団法人日本看護協会　2024 年 2/1～2026 年 1/31　日本看護学会学術集会一般演題査読依頼　仲由紀子

4.その他研修講師・看護学生実習受け入れ

1)市岡地域出張健康講座　2023 年 7 月 8 日　　中西紀彦

2)港南中学校職業講話　　2023 年 9 月 11 日　品川智恵子　寒竹朋代

3)港区いきいきサロン（弁天地域）2023 年 9 月 13 日　好岡文葉

3)港区いきいきサロン（弁天地域）2023 年 10 月 18 日　好岡文葉

4)港区いきいきサロン（弁天地域）2023 年 11 月 7 日　仲由紀子　米倉修司

5)港区健康フェスタ（港区民センター）2023 年 11 月 11 日　田中純子　應本勝美　脇田優佳

6)すみれ会（港区）港区近隣センター　2023 年 12 月 6 日　　田中純子　脇田優佳

7)大正白陵高校　2023 年 12 月 12 日　米谷晶子　（岡田医師）

8)港区いきいきサロン（波除地域）2024 年 2 月 5 日　仲由紀子

9)市岡東中学校職業講話　2024 年 2 月 7 日　中村亜衣子　寒竹朋代

10)大阪市立大学看護　交流会：渡邊亜紀

11)第 35 回 介護と医療のスキルアップフェア:夏の陣　2023 年 7 月 29 日　米倉修司　應本勝美　好岡文葉
宮崎悠　久寳麻衣子　大西知恵

12)大阪府病院協会看護専門学校　3 年課程

13)大阪府病院協会看護専門学校　2 年課程通信制

14)宝塚大学

15)大和大学

16)大阪公立大学

17)大阪医療看護専門学校

18)関西福祉科学大学

19)公益社団法人大阪府看護協会　認定看護管理者教育課程サードレベル統合演習Ⅲ　臨地実習 1 名受け入れ

20)公益社団法人大阪府看護協会　感染管理認定看護師教育課程　臨地実習 2 名受け入れ（2024/1/29～2/29）

21)公益社団法人大阪府看護協会　クリティカルケア認定看護師教育課程　臨地実習 3 名受け入れ
(2023/8/21～9/15)

22)関西女子短期大学医療秘書総合実習（医師事務作業補助者業務領域）

23)令和 4 年度職場体験受け入れ（大阪市西中学校）

24)令和 4 年度金襴会高等学校看護体験受入れ

【診 療・部署実績】

1.看護目標に対する評価

1)看護部部署別中間発表（9 月）

2)看護部部署別目標評価（3 月）

2. 看護部委員会成果発表会（3 月）

◆薬剤部

【部署概要】

17 名の薬剤師と事務 1 名 、調剤･製剤･注射剤各業務、在庫管理、薬剤管理指導・医薬品に関する情報の収集と提供を中心に薬に関する業務を取りまとめて行っている。2020 年 10 月から SPD 6 名と共に在庫管理を行っている。
医薬品情報を加味した医薬品の安全かつ安定な供給に努め、また薬剤師の職能を生かせるようにチーム医療に貢献していける薬剤師の育成にも力を入れている。

＜薬剤部の方針目標＞

○医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を努める。
○病棟薬剤実施加算など診療報酬算定可能な業務への取り組みを継続する。
○薬剤師教育の中で専門・認定薬剤師を育成する。
○チーム医療を考慮した業務の見直しを進めることに努める。
○実習生の受入れ体制を整えていく。

【診 療・部署体制】

常勤薬剤師：17 名　　事務員：1 名　　夜勤体制あり
がん薬物療法認定薬剤師（1 名）　毎週金曜 午後 薬剤師外来
外来がん治療認定薬剤師（1 名）　毎週水曜 午前 薬剤師外来

【特 色・トピックス】

<調剤室>

入院患者への内服・外用薬の調剤を行い、外来患者への一部院内調剤を行っている。2021 年 10 月より診察室において院外処方箋発行となっており、保険薬局からの疑義照会についてはプロトコルを作成し、医師-薬剤師間で同意のもとで「疑義照会の簡素化」を行っている。オーダリングシステムで医師が処方を入力し、薬剤部で処方箋と薬袋を発行し、主に一包化調剤している。適正在庫に努め発注も行っている。検査や手術のための予定入院の患者に対し、入院前の常備薬の薬品鑑別や中止薬の説明面談も行っている。

＜注射室＞

外来・入院患者の注射薬を個人セットして払い出しを行っている。抗がん剤治療に関しては投与前日までに、複数名の薬剤師で登録されたレジメンを確認し、薬剤を取り揃え、抗がん剤投与、当日に無菌調製室内の安全キャビネットを使用して無菌的(菌汚染の防止)、安全的(被爆の防止)に混注調製し提供している。また無菌調製室内のクリーンテーブルを使用して高カロリー輸液の無菌調製や院内製剤の調製も行っている。適正在庫に努め発注も行っている。

＜病棟管理業務管理室＞

入院患者さんを対象に、持参薬の薬歴管理をはじめ、入院中の内服薬、外用薬、注射薬、検査値等の情報を把握した上で、お薬のしおりを使って薬の説明を行うなど、安心して薬物治療を受けてもらえるよう努めている。バンコマイシン注やアルベカシン注などのＴＤＭ(適正な薬物療法を行うためのモニタリング)を行い、副作用のモニタリングや投与量の提案を行っている。また、副作用など患者さんから早期に聞き出して医師や看護師にフィードバックすることにより、症状が悪化することを未然に防いでいる。注射薬では流量や 2 種類以上投与される場合に配合変化を確認し、時には医師に処方提案をすることによってより良い医療の提供を目指している。

＜医薬品情報管理室＞

厚生労働省などの公的機関または製薬会社、書籍などから情報の収集・整理・保管し、医師や看護師などの医療スタッフへの情報提供を行っている。

薬事委員会の資料作成・採用医薬品の管理などの業務を行っており、DI 情報はイントラネット(CoMedix)や電子カ

ルテで参照可能である。市販後調査や副作用報告について一元管理を行っている。また地域薬局と連携で月 1 回勉強会を行っていたが、COVID-19 感染拡大防止のため 2021 年度に引き続き中止とした。

＜薬剤師外来＞
がん薬物療法を受けている患者に対して「がん薬物療法認定薬剤師」または「外来がん治療認定薬剤師」が面談を行い、副作用やコンプライアンス等の確認をすることで、安全で効率の良い診療に貢献出来るよう努めている。

＜抗菌薬適正使用推進＞
薬剤耐性（AMR）対策の推進、特に抗菌薬の適正使用推進の観点から、抗菌薬適正使用支援チームの組織を含む抗菌薬の適正使用を支援する体制を作り、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）において広域抗菌薬・抗 MRSA 薬の使用症例、血液培養陽性症例、抗菌薬長期使用症例、主治医からの相談症例などをチームで検討し、その内容を主治医にフィードバックしている。

【診 療・部署実績】

＜調剤業務＞
院外処方箋の監査、外来院内処方及び入院の調剤
2022 年度の　院外処方箋枚数：4,741 枚/月、院内処方箋枚数：848 枚/月、
後発医薬品使用割合：89.5%
院外処方箋発行率 84.8%、入院処方箋枚数 5,526 枚/月
外来一包化：8 件/月　入院一包化：2,100 件/月　持参薬一包化件数　1 件/月

＜注射業務＞
入院患者の注射投薬、高カロリー輸液、抗悪性腫瘍剤の混注、院内製剤調整、病棟薬剤在庫管理
2022 年度の入院注射処方箋枚数：8,359 枚/月、　外来注射処方箋枚数：358 枚/月
高カロリー輸液の無菌調製件数：119 件/月
外来入院抗悪性腫瘍剤の無菌調製件数：外来患者 120 件/月　入院患者 12 件/月　院内製剤件数：26 件/月

＜病棟での薬剤活動・業務等＞
病棟担当薬剤師は入院患者の薬歴の管理、服薬指導、情報提供等を行い患者に安心して薬物治療を受けてもらえるように心掛けている。
2022 年度 薬剤情報提供算出　服薬指導患者数　606 人/月　服薬指導面会件数 698 件/月
病棟薬剤業務実施加算件数：1,668 件/月　薬剤管理指導等の加算件数　615 件/月
持参薬鑑別：430 件/月　　持参薬管理件数：374 件/月
抗 MRSA 薬 TDM 件数(2022.4 月～2023.3 月)：バンコマイシン　267 件

＜医師に対する支援＞
処方代行修正件数　311 件/月

＜DI 業務＞
副作用報告：2 件/年、　質疑応答：24 件/年

＜薬学部実務実習受け入れ＞
年間 3 名受け入れ

＜治験審査委員会＞
CRC（コーディネーター）薬剤師 4 名（兼任、1 名産休）で管理
治験審査委員会(IRB)に参加、議事録作成を行っている。2022 年度は開催されておらず。

＜認定活動/チーム活動＞

薬剤師が積極的に活動している院内のチーム活動

・がん薬物療法認定薬剤師　1 名、外来がん治療認定薬剤師 1 名

患者指導、薬剤師外来、レジメン管理、処方修正代行

指導件数；47 件/月、がん患者指導管理料ハ算定件数：13 件/月、連携充実加算算定件数：22 件/月

・抗菌化学療法認定薬剤師　2 名+薬剤師 1 名　（感染制御部・AST・ICT に所属）

カンファレンス(週 1 回)、ラウンド（週 1 回)・ICT ニュース作成・ICT 講習会講師

感染制御部のミーティング（週 1 回）

AST(抗菌薬適正試用支援チーム)として抗菌薬適正使用を支援するために広域抗菌薬や長期使用症例の把握、抽出、検討、フィードバック、相談応需

抗菌薬に関する支援の受け入れ率：81.8%

ICT（感染制御チーム）6 名（認定薬剤師 2 名+薬剤師 4 名）

環境ラウンド（週 1 回)・ICT ミーティング（月 1 回）

・NST 専門療法士　3 名 + 薬剤師 2 名

ラウンド（週 2 回)、NST 会議（月 1 回)、NST 実施研修講師 又は ファシリテーター、NST 講習会講師

1 回の回診；平均 12 人/週

・緩和ケアチーム　2 名

緩和ケアラウンド（週 1 回)・緩和ケアカンファレンス（週 1 回）

疼痛コントロール相談応需 4・術後支援等の話し合い

◆医療技術部　中央検査部門

【部署概要】

中央検査部門は、検体検査室・病理検査室・細菌検査室・生理機能検査室・中央採血室の 5 つのセクションに分かれており、正確、迅速、経済的、効果的に患者様の為、業務を行っています。
検体検査室では、血液や尿などを検体として生化学検査、血球数算定、クロスマッチ、尿検査,感染症、免疫検査などの臨床検査を実施しています。病理検査室では、組織診（術中病理組織診断）を主な業務とし、臨床検査技師が標本を作製し病理医が診断しています。その他に解剖も実施しています。細菌検査室では、喀痰や尿、血液などから細菌の培養、同定を行い有効な抗菌薬を見つけるために薬剤感受性試験を実施しています。また、質量分析を利用した細菌同定を実施し、迅速に結果を報告しています。生理機能検査室では、心電図、肺機能検査・脳波・各種超音波検査などを実施し、患者様からの生体情報を臨床へ報告しています。中央採血室では、正確で迅速な臨床検査データを出すため、外来患者様の採血や鼻腔検体の採取を専任の臨床検査技師が実施しています。

【診 療・部署体制】

臨床検査技師：28 名（医療技術部長 1 名、技師長 1 名、副技師長 1 名、係長 3 名、主任 2 名、サブスーパーバイザー 5 名）
認定臨床検査技師：認定輸血検査技師（2 名）、NST 専門療法士（1 名）、糖尿病療養指導士（2 名）、超音波検査士（2 名）、緊急臨床検査士（2 名）、二級病理技術士（5 名）、心電図検定 1 級（1 名）

【特 色・トピックス】

正確で迅速な検査結果を報告するため、大阪府医師会・日本臨床衛生検査技師会・大阪府臨床検査技師会・各種メーカーサーベイの外部精度管理に積極的に参加し、臨床検査の精度向上に努めています。また、臨床検査適正化委員会や、輸血療法委員会を年数回実施し、業務の改善や輸血の適正な使用を行っています。チーム医療にも協力しており、NST、ICT 運営に参加しています。新型コロナウイルス関連検査を院内で実施しており、2023 年度件数は PCR 検査（1,031 件）、抗原定性検査（5,600 件）、抗原定量検査（691 件）実施しています。

【診 療・部署実績】

2023 年度実績
安静心電図（6,156 件）、心エコー（3,962 件）、腹部エコー（4,377 件）、乳腺エコー（901 件）、頸部エコー（880 件）、甲状腺エコー（347 件）、肺機能（786 件）、脳波（360 件）、下肢血管エコー（670 件）、外来採血（36,155 件）、細胞検査（2,107 件）、組織検査（6,457 件）、一般細菌（10,568 件）、結核菌培養（278 件）、微生物検出検査（12,614 件）、生化学検査（99,879 件）、血清検査（45,956 件）、一般検査（36,522 件）、血液検査（94,935 件）

◆医療技術部　臨床工学部門

【部署概要】

臨床工学部門では、心臓カテーテル検査や血液浄化、人工呼吸器・ME 機器管理業務、ペースメーカー業務、脳神経モニタリング、手術室業務、CPAP 導入説明、医療機器安全研修を行っています。24 時間体制をとっており、緊急カテーテル検査や緊急透析、ME 機器トラブル対応をしています。

【診 療・部署体制】

臨床工学技士：9 名

【特 色・トピックス】

血液浄化業務：緊急透析を中心に腹水ろ過やその他特殊血液浄化を施行しています。
人工呼吸器業務：人工呼吸器のセッティングやトラブル対応、病棟ラウンド時に使用点検を実施しています。
心臓カテーテル業務：心臓カテーテル検査では、血管内超音波エコーの操作・解析や IABP やポリグラフ、ペースメーカーの操作、記録を行っています。
ME 機器管理業務：輸液・シリンジポンプなどの医療機器の中央管理を実施しています。清掃、点検を行っているため故障や破損の早期発見ができ安全かつ清潔な医療機器を提供しています。また、院内で報告される医療機器の大半の異常は、院内点検・修理で対応できるため、医療機器修理費用の削減と提供までの時間短縮ができます。
医療機器安全研修の実施：医療機器の安全使用のため、年 2 回の医療機器安全研修を開催しています。
ペースメーカー外来：外来に来られる患者のペースメーカー点検を実施しています。
手術室業務：手術室に 2 名が配属しており、機械出し・機器管理業務を行っています。

【診 療・部署実績】

心臓カテーテル検査　81 件、　PCI　77 件、　EVT　33 件
アブレーション治療　46 件、　EPS　4 件
ペースメーカー植え込み
　新規　14 件、交換　4 件、　PM 外来、207 件、　PM 点検　27 件
血液浄化
　HD・HDF　8 件、　CHDF　10 件、　血漿交換　4 件
腹水濾過　17 件
頭蓋骨形成　4 件
脳神経モニタリング　29 件
機器管理
　ME 機器日常点検　11,400 台、　ME 機器定期点検　1,243 台、　院内修理・トラブル対応　594 件
手術業務
　直接介助　712 件、間接介助　233 件
CPAP
　導入　9 件、解析　261 件

◆医療技術部　リハビリテーション部門

【部署概要】

KHS リハビリテーション部の急性期として心臓疾患、脳血管疾患、急性疾患に伴う廃用症候群、運動器疾患、呼吸器疾患、がん関連疾患などリハ医師が必要と判断するあらゆる患者様に急性期リハビリテーションを実施している。
また法人内の回復期、生活期のステージにおいても質の高いリハビリテーションをシームレスに提供できるよう多根脳神経リハビリテーション病院、多根第二病院、多根老人介護保険施設、てんぽーざんと密に連携を図り、迅速な情報提供及び情報のフィードバックの徹底を常に心がけている。

【診 療・部署体制】

リハビリテーション科専門医	1 名
理学療法士	13 名
作業療法士	1 名
言語聴覚士	3 名
リハ助手	1 名
受付事務	2 名

【特 色・トピックス】

医師の指示より理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士が早ければ入院当日から対応する。また患者様の回復に応じて可能であればリハビリテーションセンターで実施し早期退院に努めている。
整形外科の手術後やスポーツ整形外来にて主治医がリハビリテーションを必要と判断した場合には、外来リハビリテーションを実施している。
また今年度より入院中のパーキンソン患者に対して、適宜主治医が判断した上で退院後サポート体制強化のため外来リハビリテーションを開始した。

【診 療・部署実績】

実施延べ人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
入院	1,849	1,983	1,933	1,769	2,025	2,028	2,198	1,835	1,732
外来	668	678	758	732	726	701	726	659	736
合計	2,517	2,661	2,691	2,501	2,751	2,729	2,924	2,494	2,468

1 月	2 月	3 月	合計
2,060	1,907	2,135	23,454
684	674	741	8,483
2,744	2,581	2,876	31,937

入院疾患別延べ人数

	人数	%
心大血管リハビリ	1,368	5.83
脳血管リハビリ	10,312	43.96
廃用症候群リハビリ	2,771	11.81
運動器リハビリ	6,742	28.74
呼吸器リハビリ	2,127	9.06

がんリハビリ	134	0.57	
合計	23,454		

◆医療技術部　栄養管理部門

【部署概要】

患者様自身の回復力を高め、疾病治療に貢献することを目的として、個々の病状にあわせた適正な栄養量の食事を提供。また治療の一環として患者様に食生活に関する知識や技術を習得させ、栄養状態の改善、疾病の治療、増悪や再発の防止に役立たせる指導を行っています。

【診 療・部署体制】

5 名の管理栄養士で入院患者の栄養管理、入院･外来の栄養指導・栄養相談、給食管理など食事･栄養に関する業務を実施。

・入院は一人あたり 1～2 病棟受け持ち、栄養指導、栄養相談、嗜好､食事アレルギーの確認等を実施
・外来の栄養指導は予約制となっているが当日予約も対応
・栄養サポートチーム(NST)は NST 専任 2 名が 2 チームに分かれて活動
・給食業務は日清医療食品（管理栄養士 2 名　栄養士 1 名、調理師 5 名、調理員 14 名）に委託、多くの治療食、摂食･嚥下状態や安静度に合わせた食事形態、アレルギー・嗜好、ケモ･緩和等様々な病状に合わせた食事に対応。

【特 色・トピックス】

5 名の管理栄養士で入院患者の栄養管理、入院外来の栄養指導・栄養相談、委託給食管理など食事･栄養に関する業務を実施。
医療安全、栄養サポートチーム(NST)、褥瘡、感染制御、クリニカルパス、災害対策、緩和ケア、ACP、CS、脳卒中相談窓口など各種チーム医療に参加。
給食業務は日清医療食品に委託、毎月イベントメニューやご当地メニュー等も全食種に対応。
食事摂取不良の患者様には本人の嗜好や摂取量に応じて食事内容を調整した個別対応食を提供。
救急部屋(E ルーム）夜間入院時の食事対応。
パウチタイプ栄養剤の導入、濃厚流動食の変更検討。
食札の文言変更。
嗜好調査(年 2 回実施　WEB・紙面対応)。
施設間ローテーション。
2 大学からの臨地実習 2 名×2 クール受け入れ。
NST 臨地実習生の受入れ(法人内)。
栄養の日「栄養ワンダー」院内啓発活動。
ボランティア活動（港区　いきいきサロン)。

【診 療・部署実績】

診療実績（件数）　2023

入院時食事療養費		217,464
内訳	入院時食事療養費 1	196,307
	入院時食事療養費 2	21,157
食堂加算		83,670
特別食加算		72,698
栄養食事指導		
個別栄養指導	入院（初回）	826
	入院（2 回目以降）	165
	外来（初回）	165
	外来（2 回目以降）	517
栄養管理		
栄養サポートチーム加算		914
早期栄養介入加算（250 点/400 点）		1007 / 621
退院時サマリー作成		11

個別栄養食事指導内訳（件）

	入院	外来
糖尿病	234	423
高血圧	137	40
脂質異常症	6	99
心疾患	127	11
肥満	2	13
腎疾患	22	17
高尿酸血症	0	8
肝疾患	30	29
上部消化管	85	11
下部消化管	79	9
膵疾患	31	6
がん	151	16
嚥下	22	15
低栄養/摂取不良	64	1
その他	9	6

2023 年度行事食

	イベントメニュー	ご当地メニュー
4 月	お花見ご膳	鹿児島県郷土料理
5 月	こどもの日	埼玉県郷土料理
6 月	あじさいご膳	宮崎県郷土料理
7 月	七夕　土用の丑の日	沖縄県郷土料理
8 月	お盆	和歌山県郷土料理
9 月	敬老の日・お月見	
10 月	創立記念日	鳥取県郷土料理
11 月	勤労感謝の日	長野県郷土料理
12 月	クリスマス、冬至、年越そば	
1 月	お正月	
2 月	節分	宮城県郷土料理
3 月	ひなまつり	愛知県郷土料理

◆医療安全管理部

【部署概要】

・医療安全管理体制の確保及び推進のために、副院長を委員長とした医療安全管理委員会を設置している。医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に、発生した原因究明のための調査と分析、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を職員へ周知している。
・主な業務内容としては、
① インシデント・アクシデントレポートの収集、分析及び管理
② 医療上の事故等、防止策の立案、実施及び評価
③ マニュアルの策定等
④ 現場の実地点検等
⑤ 医療安全に関する調査、注意喚起、職員に対する医療安全研修の企画・開催
⑥ 全死亡事例の把握と医療事故調査・支援センターへの報告について必要性の確認
⑦ 医療安全に係る患者相談である。

【診 療・部署体制】

・医療安全管理体制加算Ⅰ
・医療安全対策地域連携加算Ⅰ（2018～）連携病院：加算Ⅰ・多根眼科記念病院
加算Ⅱ・多根第 2 病院
加算Ⅰ・社会医療法人愛仁会千船病院（2021 年度～）
・医療安全管理部の構成
医療安全管理部長:医師
医療安全管理者：看護師
医薬品安全管理者：薬剤師
事務局

【特 色・トピックス】

1．インシデント・アクシデントレポートの分析及び対策等の検討
2．医療安全ラウンド
3．医療安全推進委員会の開催（年 11 回）
4．医療安全管理委員会の開催（年 12 回）
5．医療安全推進担当者活動支援
6．医療安全研修の開催（年 11 回）
7．医療安全対策・運営会議（週 1 回）
8．医療安全対策地域連携加算に係る相互連携（年 3 回）
9．大阪府医療安全対策委員会の参加（年 12 回）
10. 市西支部医療安全交流会の参加（年 3 回）
11. 病院実習学生オリエンテーション
12. 年間計画の医療安全研修以外の新人看護師対象医療安全研修の開催（年 2 回）新入職者研修
13. 医療安全管理マニュアルの改訂
14. 医療安全情報・学会・院外研修・医療安全ニュース等の情報発信

【診 療・部署実績】

・2023 年度インシデントレポート総報告件数：2,073 件
　①インシデントレポート報告件数：2,052 件
　②アクシデント報告件数：21 件
　③その他の報告件数：272 件
・医療安全研修会（年回集合、e-ラーニング　*新人看護師集合研修含む）
　4 月　新入職医療安全集合研修「医療安全総論・各論」「個人情報管理の取扱い」
　5 月「医療安全管理体制」「個人情報の取扱い」「報告の意義、事故発生時の対応」
　6 月　薬剤と安全管理
　6 月　新人看護師研修「インシデントレポートの書き方」
　7 月　放射線障害防止について、造影剤アレルギーについて
　8 月　治療・療養環境における転倒・転落
　9 月　急変を予測、迅速で効果的な対応
　11 月　KYT（危険予知トレーニング）
　12 月　肺血栓・塞栓症

◆感染制御部

【部署概要】

総合病院内における院内感染発生の抑止、感染症診断と治療の適正化、外部から院内への感染症伝播阻止のために、院内感染対策委員会(ICC)、実活動チームである院内感染制御チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)およびICC下部組織である感染リンクスタッフ会を中心として、感染制御全般の活動を行っている。

【診 療・部署体制】

医師3名、看護師1名、薬剤師3名、臨床検査技師1名、事務部1名の体制

1．感染制御チーム(Infection Control Team)

医療関連感染防止対策を迅速かつ円滑に推進実施する期間として感染制御チーム（以下、ICT）を設置している。感染制御対策に関する情報収集、監視、教育、啓発、指導、及び介入の役割を担い、感染制御対策のための組織横断的な活動を行っている。

2．抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team)

抗菌薬適性使用に関する事例を検討するために抗菌薬適正使用支援チーム(以下、AST)を置き、その組織及び運営に関し必要な事項を定め、抗菌薬の適正使用支援の推進を目的とし活動を行っている。

【特 色・トピックス】

1. 院内感染対策委員会の開催（月1回、緊急時は随時開催）
2. 感染リンクスタッフ会の開催（月1回）
3. ICT講習会の開催（年10回）
4. ICTニュースの発行（月1回）
5. AST&ICTラウンド（週1回）
6. ASTカンファレンス（週1回）
7. 各部署における感染症（とくに院内感染）発生状況の把握
8. 臨床検体からの病原体（とくに薬剤耐性菌）分離状況の把握
9. 病原体の薬剤感受性動向の把握
10. 抗菌薬適正使用のチェックと指導
11. 消毒薬適正使用のチェックと指導
12. 手指・器材の洗浄・消毒実施状況の把握と指導
13. 感染性医療廃棄物の処理状況の把握と指導
14. 国内外における感染症流行状況の把握と感染防止対策の徹底
15. 感染症に関する各種届出の指導と確認
16. 健康保険感染防止対策加算病院連携
17. 講師派遣
    - ・介護と医療の連携スキルアップフェア　講師　宮﨑　悠
    - ・出張研修　亀望会コスモス苑　講師　宮﨑　悠

【診 療・部署実績】

各科の診療実績を参照

1. 院内感染対策委員会（ICC）

病院長、感染症専門医師（ICD)、感染管理認定看護師、抗菌化学療法認定薬剤師、内科系・外科系部長各1名、救急科部長、看護部長、医療安全管理者、細菌検査室臨床検査技師、薬局長、管理栄養士、洗浄・消毒・滅菌部門責任者、事務部長により構成され、2023年度は12回開催。緊急時開催はなし。

2. 感染リンクスタッフ会

各病棟・手術室ならびに外来看護師、各病棟ならびに外来担当薬剤師、入院患者をもつ診療科の医師、リハビリ科 1 名、放射線科 1 名により構成され、2023 年度は 11 回開催。

3. ICT 講習会
全職員を対象に、感染制御に必要な事項の教育・啓蒙を目的として開催。
2023 年度は年 10 回、以下のテーマについて開催した。
5 月：感染対策向上加算と ICT 講習会受講の必要性について
6 月：COVID-19 について
7 月：細菌検査について
8 月：レジオネラ肺炎について
9 月：医療関係者として必要なワクチン接種について
10 月：SSI について
11 月：CDI（クロストリディオイデスディフィシル感染症）について
12 月：抗菌化学療法　総論
1 月：感染対策について
2 月：抗菌化学療法　各論

4. ICT ニュース発行（毎月 1 回）
毎月 1 回 ICT ニュースの発行を行い、総合病院全職員に周知を図るとともに、国内外の感染症に関しての新しい情報を提供している。なお、ICT ニュースに記載した事項は、院内感染制御マニュアルの一部として利用することに決められている。
2023 年度、各号に掲載した特別記事内容は以下のとおりである。
4 月(246 号)：レジオネラ肺炎のお話
5 月(247 号)：ノロウイルス感染症について
6 月(248 号)：感染対策向上加算について
7 月(249 号)：医療関係者への予防接種について
8 月(250 号)：耐性菌の種類と略号について
9 月(251 号)：SSI 回診はじめました
10 月(252 号)：麻しん・風しん疑い患者の検体採取について
11 月(253 号)：AST 活動報告
12 月(254 号)：なぜ耐性菌は問題なの
1 月(255 号)：2023/2024 シーズンのインフルエンザ流行の特徴
2 月(256 号)：感染性胃腸炎が急増しています！
3 月（257 号)：劇症型溶血性連鎖球菌（人食いバクテリア）について

5. 医療関連感染サーベイランス
1）中心ライン関連血流感染サーベイランス
中心ラインの中で、中心静脈カテーテルが挿入されている患者を対象とし、カテーテル関連、血流感染の調査としてサーベイランスを実施している。サーベイランスの結果は、院内での公表とする。
2）手術部位感染サーベイランス
消化器外科手術を受けた患者を対象とし、手術部位感染サーベイランスを実施している。サーベイランス結果は、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録しており、院内での公表とする。
3）微生物サーベイランス
サーベイランスの結果は、院内での公表とする。

6. 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動について
2023 年度抗菌薬適正使用支援チーム(AST)より支援を行った症例は 249 症例、医師からのコンサルテーションは 51 症例であった。これらの症例のうち、AST の提案受入れ率は 82%であった。

7. 感染リンクスタッフ環境ラウンド（毎週水曜日）
医師、看護師、薬剤師、コメディカル 5〜6 名で構成されたチーム（A〜F の 6 チーム）により、各科外来、放射線治療棟、カテ室、アンギオ室、各外来、各病棟、検査科、薬剤部など病院内の部署を 7 つに振り分けて、ラウンドを実施した。ラウンドでのチェック項目は、廃棄物の適正処理、薬品管理、流し台の環境整備、処置カートの整理整頓、材料・滅菌物、滅菌鋼製小物の保管、擦式アルコール製剤の設置と管理、ハンドソープの設置と管理、救急カートの整理整頓、汚物室内の環境、リネンの取り扱い、薬品保冷庫の管理、ナーシングカート内の整理整頓、経管栄養ボトルの管理、棚の整理整頓等。

8. 手洗い技術演習
10 月 2 日〜20 日（土日祝日除く）の 15 日間、総合病院全職員を対象として、石けんと流水による手洗いの技術演習を実施した。628 名が参加し、参加率 88%、平均 4.26 点であった。

9. 感染防止対策加算連携
・Ⅰ対Ⅰ連携：大野記念病院・育和会記念病院との相互評価実施。（12 月 25 日、3 月 12 日）
・Ⅰ対Ⅲ連携：内藤病院と合同カンファレンス開催。（7 月 31 日、10 月 30、1 月 29 日、3 月 4 日）

◆卒後臨床研修センター

【部署概要】

初期臨床研修及び後期研修医の総合窓口業務を行っている。主な業務は初期臨床研修に関することで、人材の募集から始まり、見学、採用、実習、修了までの事務的な部分を行う。たすき掛け病院との書類のやりとりや厚生労働省に提出する各種書類の作成、協力病院との橋渡しを行い、初期臨床研修に関する一連の事務手続きも全て行っている。

【診 療・部署体制】

卒後臨床研修センター長：森　琢児（副院長）
課　長：川本　博
事務スタッフ 1 名（専従）

【特 色・トピックス】

昨年度はコロナ禍で開催が中止されていた対面での合同説明会が復活した。
【参加実績】2022 年 7 月 3 日　レジナビフェア in インテックス大阪（ブース訪問者 58 名）
2023 年 2 月 18 日　近畿地区臨床研修病院説明会（ブース訪問者 27 名）
【開催実績】2022 年 7 月 9 日　多根総合病院説明会（参加学生 1 7 名）
9 月初旬に初期臨床研修医の採用試験を行い、10 月のマッチング結果で 7 名がフルマッチした。

【診 療・部署実績】

2022 年度は、募集人員 7 名に対して受験者は 20 名。倍率は 2 倍以上で、マッチングシステムにより 7 名が決定した。1 年次研修医は 10 名（大阪公立大学医学部附属病院からのたすき掛け 2 名、奈良県立医科大学附属病院からのたすきがけ 1 名含む)、2 年次研修医は 7 名。全員が無事に初期臨床研修を終え、3 名が専攻医（後期研修医）として当院に残った。また、1 年目にたすきがけ研修医として当院で研修した 2 名が専門研修を希望した。当院の臨床研修の実績が評価され、大阪府下臨床研修病院 68 病院中 6 位の高評価を得た。都市部の定員が減らされる中、7 名から 8 名の定員増となった。

◆事務部

【部署概要】

事務部は経営目的を達成するため、病院管理及び経営に必要な業務を担う。
医事課・カスタマーリレーション室・管理課から構成される。

【部署体制】

【医事課】
患者の受診受付及び予約業務、保険登録・確認業務、診療報酬明細書を作成・請求業務、保険外診療請求業務
患者負担金未収管理及び督促業務、査定・減点対策業務、関連会議・委員会出席、施設基準・診療報酬管理業務
医事関連システム対応業務、各種書類作成管理業務・スキャナー業務、診療報酬請求統計データ作成業務
外来・病棟の事務的運営業務、介護保険意見書受付及び請求業務、予防接種実施集計業務、健康診断実施集計業務
救急受付業務、電話交換業務、医事紛争対応業務、患者対応業務、カルテ開示対応業務
ボランティア受入対応業務、CS(カスタマーサービス)業務

【カスタマーリレーション室】
入院患者の慢性期･回復期などの医療機関への転院調整ならびに施設への入所･帰所調整業務
自宅退院支援業務および関係機関との連絡・調整業務
経済的問題、社会資源、療養生活に関する相談（入院・外来）業務
紹介患者の受入（検査・外来・セカンドオピニオン・入院）に関するコーディネート業務
返書業務
専門医療機関、高次医療機関への転院・受診調整業務
開放型病院に関する業務（登録医総会や各科セミナーなどの企画・運用）
かかりつけ医の紹介（逆紹介）業務
介護保険サービス等に関する相談業務
ケアプラン（介護サービス計画）の立案
関係機関との連絡調整業務
給付管理・請求業務

【管理課】
➢システム係
総合・リハビリ病院の電子カルテ基幹マスタ管理業務
総合・リハビリ病院の電子カルテヘルプデスク業務
総合・リハビリ病院の部門システム連携管理業務

➢診療情報管理室
入院診療録の管理
診療録量的監査業務・診療録質的監査管理業務
DPC データ作成・修正・提出に関する業務
各種患者数集計業務
診療録貸出業務、診療録開示用資料出力業務
院内がん登録に係わる業務の全般
退院サマリー記載状況管理業務
病歴登録業務、入院患者疾病統計業務
電子カルテ新規文書作成・修正・管理業務、スキャナー画像データ削除業務
入院基本 DB（入院基本 DB）送達業務

➢総務・庶務・図書係
事務部長秘書業務、文書管理業務、部門・部署間調整業務、診療費未収督促対応業務（回収困難事案）
災害拠点病院関連業務、災害対応業務、災害対応物品管理業務、感染制御部関連業務、衛生管理業務
医療安全推進業務、防火防災関連業務 、施設・設備管理業務 、行政対応窓口業務（感染・災害補助金関連）
新規業務の業務フロー構築、総務業務一般（人事・給与・経理を除く）
図書室に関する管理運営業務全般（図書館司書の管理含む）、健康講座の開催等、各部署専門分野以外の業務全般

【特 色・トピックス】

・延べ入院患者数 92,187 人
・延べ外来患者数 129,034 人
・平均在院日数 9.7 日
・病床稼働率 91.4%
・救急搬送件数 8,668 件
・手術件数 3,386 件
・内視鏡件数 11,489 件

【各科医師スタッフ　資格一覧】

	施 設：	多根総合病院	部 署：	放射線科
役職・氏名	資 格			
部 長 松尾　良一	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医			
部 長 濱澤　良将	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本核医学会専門医/ＰＥＴ核医学認定医 /大阪市立大学医学部博士			
副部長 池本　美奈子	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導医/マンモグラフィ読影認定医			
副部長 谷口　明繁	日本医学放射線学会放射線診断専門医			
	施 設：	多根総合病院	部 署：	放射線治療科
役職・氏名	資 格			
部 長 石井　健太郎	大阪市立大学医学博士/放射線治療専門医			
副部長 森本　英之	大阪市立大学医学博士/放射線治療専門医			

	施設：	多根総合病院	部署：	放射線診断部

資格	人数
X 線 CT 認定技師	2
肺がん CT 検診認定技師	1
日本磁気共鳴専門技術者	1
日本救急撮影技師認定	1
検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師	6
デジタルマンモグラフィ品質管理	2
第一種放射線取扱主任者	3
第二種放射線取扱主任者	1
画像等手術支援認定	1
オートプシーイメージング認定診療放射線技師	2
被ばく相談員	1
放射線管理士	2
臨床実習指導教員	3
胃がん検診専門技師	2
胃がん検診読影補助認定技師	2

胃がん X 線検診技術部門 B 資格認定	1
総合検診指導士認定	1
塩化ラジウム（Ra-226）安全取扱資格	1
X 線 CT 認定技師	2
肺がん CT 検診認定技師	1
日本磁気共鳴専門技術者	1
日本救急撮影技師認定	1
検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師	6
デジタルマンモグラフィ品質管理	2
第一種放射線取扱主任者	1

	施設：	多根総合病院	部署：	放射線治療部

資格	人数
放射線治療専門放射線技師	3 名
医学物理士	2 名
放射線治療品質管理士	3 名
第一種放射線取扱主任者	2 名
医療情報技師	1 名

	施設：	多根総合病院	部署：	中央検査部

資格	人数
臨床工学士	1 名
糖尿病療養指導士	2 名
上級健康食品管理士	1 名
NST 専門療法士	1 名
二級臨床病理技術士血液	1 名
二級臨床病理技術士臨床化学	1 名
二級臨床検査士微生物学	2 名
二級臨床検査士循環生理	1 名
認定輸血検査技師	2 名
心電図検定 1 級	1 名
超音波検査士	6 名
緊急臨床検査士	1 名
有機溶剤作業主任者	1 名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1 名
遺伝子分析科学認定士（初級	1 名
細胞検査士	2 名
ピンクリボンアドバイザー（中級）	1 名
臨地実習指導者	2 名

	施設：	多根総合病院	部署：	栄養管理部
資格				人数
ＮＳＴ専門療法士				4名
糖尿病療養指導士				3名
病態栄養認定管理栄養士				3名
がん病態専門管理栄養士				1名
栄養治療専門療法士　がん専門療法士				1名
フードスペシャリスト				1名

	施 設：	多根総合病院	部 署：	**臨床工学部**
資 格				人数
3学会合同呼吸療法認定士				2名
透析認定士				1名
ME第2種				6名
医療機器情報コミュニケータ				1名

	施 設：	多根総合病院	部 署：	内視鏡センター
資 格				人数
日本消化器内視鏡技師				13名
ME第2種				1名
	施 設：	多根総合病院	部 署：	リハビリテーション部
資 格				人数
3学会合同呼吸療法認定士				6名
認定理学療法士（呼吸）				1名
認定理学療法士（循環器）				1名
福祉住環境コーディネーター2級				1名
実習指導者講習会修了者				6名
がんのリハビリテーション研修会修了者				2名
理学療法士協会指定管理者（初級）				1名

【学会発表】

【学会発表】	施 設：多根総合病院　　部 署：内 科		
会名称	第 238 回日本内科学会近畿地方会		
発表テーマ	経過中に脳浮腫を合併した糖尿病ケトアシドーシスの 1 例		
日 時	2022/12/10	発表者	安藤加奈子、新田洋介、福田圭祐、白石翔一、瓦林孝彦
場 所	Web		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	消化器内科
会名称	第 109 回日本消化器病学会総会			
発表テーマ	急性出血性直腸潰瘍に対する抗血栓薬内服下での止血鉗子を用いた 内視鏡的止血術に関する検討			
日時	2023 年 4 月 6 日-8 日	発表者	中尾栄祐，淺井　哲，赤峰瑛介	
場所	長崎			
会名称	消化管疾患 Inter-Hospital Meeting			
発表テーマ	潰瘍性大腸炎におけるテーラーメイド医療			
日時	2023 年 4 月 12 日	発表者	淺井　哲	
場所	大阪			
会名称	消化管疾患 Inter-Hospital Meeting			
発表テーマ	消化管の早期癌に対する診断と治療～当院における現状と工夫～			
日時	2023 年 4 月 12 日	発表者	中尾栄祐	
場所	大阪			
会名称	第 105 回日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	当院における大腸憩室出血に対する保存的加療を中心とした治療戦略の検討			
日時	2023 年 5 月 25 日-27 日	発表者	藤田裕真，中尾栄祐，淺井　哲	
場所	東京			
会名称	OSAKA UC WEB Forum			
発表テーマ	中等症以降 UC での治療選択を考える【パネリスト】			
日時	2023 年 7 月 29 日	発表者	淺井　哲	
場所	大阪			

会名称	Total management Web Seminar in Osaka		
発表テーマ	【座長】		
日時	2023年9月1日	発表者	淺井　哲
場所	大阪		
会名称	第59回日本胆道学会学術集会		
発表テーマ	十二指腸乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術術前精査の診断能		
日時	2023年9月14日-15日	発表者	竹下宏太郎，肱岡　範，奥坂拓志（国立がん研究センター中央病院発表）
場所	札幌		
会名称	Total Care ＆ Relationship for Young Experts(TRY) IBD Meeting		
発表テーマ	【座長】		
日時	2023年9月7日	発表者	淺井　哲
場所	大阪		
会名称	Asahi Digestive Disease Week		
発表テーマ	膵炎DICに対する集中治療管理【Discussor】		
日時	2023年10月11日	発表者	竹下宏太郎
場所	大阪		
会名称	大阪肝疾患フォーラム		
発表テーマ	【パネリスト】		
日時	2023年10月12日	発表者	淺井　哲
場所	大阪		
会名称	クローン病の薬剤選択を考える会		
発表テーマ	【座長】		
日時	2023年10月26日	発表者	淺井　哲
場所	大阪		
会名称	第31回日本消化器関連学会週間（JDDW）		
発表テーマ	当院における経鼻経消化管的嚢胞持続洗浄療法の治療経験		
日時	2023年11月4日	発表者	島　佳弘，淺井　哲，松尾健司，中尾栄祐，藤本直己
場所	大阪		

会名称	第 111 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	膵被包化壊死および腹腔内嚢胞に対する経鼻経消化管的嚢胞持続洗浄療法の有用性		
日時	2023 年 11 月 18 日	発表者	島　佳弘，竹下宏太郎，松尾健司， 中尾栄祐，淺井　哲
場所	大阪		
会名称	第 111 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	遺残胆嚢管結石に対し経口胆道鏡（Spy Glass）を挿入し採石に至った症例		
日時	2023 年 11 月 18 日	発表者	新井勇輝，今中　孝，細田洋平， 髙木康宏，淺井　哲
場所	大阪		
会名称	Asian Pacific Digestive Week 2023		
発表テーマ	A comparative study of EUS-guided versus percutaneous liver biopsy for nonmalignant hepatic parenchymal disease		
日時	2023 年 12 月 6 日-9 日	発表者	S.Asai，K.Takeshita，N.Fujimoto， K.Matsuo，Y.Shima，E.Nakao，T.Ichinona， H.Jimbo
場所	Bangkok		
会名称	Asian Pacific Digestive Week 2023		
発表テーマ	The feasibility of EUS-FNA for neoplastic lesions with heparinized wet suction and one stroke method		
日時	2023 年 12 月 6 日-9 日	発表者	K.Takeshita，S.Asai，N.Fujimoto，K.Matsuo，A Koizumi，S.Hashimoto，Y.Shima，T.Hashimura，S.Otachi，H.Jimbo，E.Nakao，T.Ichinona，E.Akamine
場所	Bangkok		
会名称	Asian Pacific Digestive Week 2023		
発表テーマ	Colonoscopic detorsion for sigmoid volvulus with endoscope position detecting unit		
日時	2023 年 12 月 6 日-9 日	発表者	E.Nakao，E.Akamine，A.Satoshi
場所	Bangkok		
会名称	Asian Pacific Digestive Week 2023		
発表テーマ	Usefullness of Transmural naso-cyst continuous irrigation for walled-off necrosis and intra-abdominal abscess		
日時	2023 年 12 月 6 日-9 日	発表者	Y.Shima，K.Matsubara，A.Koizumi，S.Hashimoto，T.Hashimura，H.Jimbo，K.Matsuo，S.Otachi，K.Takeshita，E.Nakao，T.Ichinona，N.Fujimoto，E.Akamine，S.Asai
場所	Bangkok		
会名称	日本内科学会近畿支部主催　第 242 回近畿地方会		
発表テーマ	内視鏡ドレナージが奏功した外傷性膵損傷の 1 例		
日時	2023 年 12 月 9 日	発表者	宮尾哉希，今中　孝，細田洋平，松尾健司，

場所	大阪		竹下宏太郎，中尾栄祐，赤峰瑛介，藤本直己， 淺井　哲
会名称	日本内科学会近畿支部主催　第 242 回近畿地方会		
発表テーマ	内視鏡的に整復し得た胃軸捻転症の 2 例		
日時	2023 年 12 月 9 日	発表者	山上弘世，赤峰瑛介，小泉　葵，橋本沙優里， 松原佳穂，島　佳弘，松尾健司，竹下宏太郎， 中尾栄祐，淺井　哲
場所	大阪		
会名称	日本消化器病学会第 120 回近畿支部例会		
発表テーマ	右肝動脈瘤が胆嚢内に穿破し、胆道出血を繰り返した一例		
日時	2024 年 1 月 27 日	発表者	内山千晴，松原佳穂，橋本沙優里，小泉　葵，島　佳弘， 橘村友哉，大舘秀太，神保仁美，松尾健司，竹下宏太郎， 中尾栄祐，一ノ名巧，藤本直己，赤峰瑛介，淺井　哲， 細田洋平，小川淳宏
場所	神戸		
会名称	日本消化器病学会第 120 回近畿支部例会		
発表テーマ	宿便による閉塞性大腸炎に対してスネアを用いた内視鏡的治療が奏効した一例		
日時	2024 年 1 月 27 日	発表者	山本貴大，竹下宏太郎，小泉　葵，橋本沙優里，松 原佳穂，島　佳弘，橘村友哉，大舘秀太， 神保仁美，松尾健司，中尾栄祐，赤峰瑛介， 藤本直己，淺井　哲
場所	神戸		
会名称	IBD Communication -IBD における地域連携の紹介と逆紹介を考える-		
発表テーマ	紹介を受けた IBD 患者さんに対する当院での治療の実際		
日時	2024 年 2 月 22 日	発表者	大舘秀太
場所	大阪		
会名称	IBD Communication -IBD における地域連携の紹介と逆紹介を考える-		
発表テーマ	当院における"IBD 診療の質"を上げるための取り組み		
日時	2024 年 2 月 22 日	発表者	淺井　哲
場所	大阪		
会名称	第 20 回日本消化管学会総会学術集会		
発表テーマ	内視鏡的粘膜下剥離術（ESD）で切除した非 Barrett 食道腺癌の一例		
日時	2024 年 2 月 9 日-11 日	発表者	田川南斗，中尾栄祐，小泉　葵，橋本沙優里， 松原佳穂，島　佳弘，橘村友哉，大舘秀太， 神保仁美，松尾健司，竹下宏太郎，赤峰瑛介， 藤本直己，淺井　哲
場所	沖縄		

会名称	第 20 回日本消化管学会総会学術集会		
発表テーマ	内視鏡的に整復し得た胃軸捻転症の 2 例		
日時	2024 年 2 月 9 日-11 日	発表者	小泉　葵，橋本沙優里，松原佳穂，島　佳弘，橋村友哉，大舘秀太，神保仁美，松尾健司，竹下宏太郎，中尾栄祐，赤峰瑛介，藤本直己，淺井　哲
場所	沖縄		
会名称	第 20 回日本消化管学会総会学術集会		
発表テーマ	青黛による回腸末端炎が疑われた潰瘍性大腸炎の一例		
日時	2024 年 2 月 9 日-11 日	発表者	廣部雅臣，赤峰瑛介，小泉　葵，橋本沙優里，松原佳穂，島　佳弘，橋村友哉，大舘秀太，神保仁美，松尾健司，中尾栄祐，竹下宏太郎，藤本直己，淺井　哲
場所	沖縄		
会名称	第 60 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	右肝動脈瘤が胆嚢内に穿破し胆道出血を繰り返した一例		
日時	2024 年 3 月 21 日-22 日	発表者	川﨑健生，竹下宏太郎，小泉　葵，橋本沙優里，松原佳穂，島　佳弘，橋村友哉，大舘秀太，神保仁美，松尾健司，中尾栄祐，赤峰瑛介，藤本直己，淺井　哲
場所	北九州		
会名称	第 60 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	内視鏡治療が奏効した外傷性膵損傷（Ⅲb）の一例		
日時	2024 年 3 月 21 日-22 日	発表者	赤松大祐，松尾健司，小泉　葵，橋本沙優里，松原佳穂，島　佳弘，橋村友哉，大舘秀太，神保仁美，中尾栄祐，竹下宏太郎，赤峰瑛介，藤本直己，淺井　哲
場所	北九州		

【学会発表】	施 設：多根総合病院　　部 署：**脳神経内科**		
会名称	一般社団法人日本神経学会第 122 回近畿地方会		
発表テーマ	てんかん発作を合併した Down 症候群の 2 例		
日 時	2022/7/30	発表者	國方桃代、白石翔一、田中なつき、吉田智子、北村絵未
場 所	大阪府豊中市		江並朋美、小玉大地、柳原武彦
会名称	一般社団法人日本神経学会第 124 回近畿地方会		
発表テーマ	一酸化炭素中毒による遅発性脳症をきたした 1 例		
日　時	2023/3/5	発表者	仲辻有佑、白石翔一、小玉大地、田中なつき、吉田智子
場　所	大阪府豊中市		黒田百合、奥田佳延、青池太志、柳原武彦
会名称	STROKE2023		
発表テーマ	症候性内頚動脈起始部閉塞が自然再開通し、頚動脈ステント留置術をおこなった 3 例		
日 時	2023/3/16-3/18	発表者	吉田智子
場 所	神奈川県横浜市		
会名称	STROKE2023		
発表テーマ	両側延髄内梗塞で異なる転帰を辿った 2 例		
日 時	2023/3/16-3/18	発表者	田中なつき
場 所	神奈川県横浜市		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	外科
会名称	緩和ケアと不眠症診療セミナー			
発表テーマ	急性期病院におけるレンボレキサントの役割			
日時	2023 年 4 月 25 日	発表者	柄池真規子	
場所	大阪			
会名称	第 123 回日本外科学会定期学術集会			
発表テーマ	地域拠点病院での働き方改革			
日時	2023 年 4 月 27 日-29 日	発表者	森　琢児	
場所	東京			
会名称	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会			
発表テーマ	シンポジウム 1「病院、クリニックにおける鼠径部ヘルニア短期滞在手術－患者のメリットは、施設のメリットはー」【特別発言】			
日時	2023 年 5 月 26 日-27 日	発表者	上村佳央	
場所	大阪			
会名称	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会			
発表テーマ	エキスパートから学ぶ鼠径部ヘルニア（鼠径部切開法）			
日時	2023 年 5 月 26 日-27 日	発表者	上村佳央	
場所	大阪			
会名称	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会			
発表テーマ	シンポジウム 4「鼠径部ヘルニアの診断学」【司会】			
日時	2023 年 5 月 26 日-27 日	発表者	上村佳央	
場所	大阪			
会名称	第 59 回日本胆道学会学術集会			
発表テーマ	経口胆道鏡スパイグラスによる採石術が奏功した術後遺残胆嚢管結石の一例			
日時	2023 年 9 月 14 日-15 日	発表者	今中　孝，細田洋平，實近侑亮，小澤慎太郎，林田一真，加藤弘記，廣岡紀文，森　琢児，小川　稔，小川淳宏，上村佳央，西　敏夫，丹羽英記	
場所	札幌			
会名称	日本サイコオンコロジー学会			
発表テーマ	教育講演【座長】			
日時	2023 年 10 月 7 日	発表者	柄池真規子	
場所	奈良			

会名称	第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会		
発表テーマ	当院の待機的大腸癌切除術における SSI リスク因子の検討		
日時	2023 年 11 月 10 日-11 日	発表者	小川淳宏，福田雄介，大竹弘泰，今中　孝，實近侑亮，小澤慎太郎，林田一真，加藤弘記，細田洋平，廣岡紀文，森　琢児，上村佳央，西　敏夫，丹羽英記，小川　稔
場所	熊本		
会名称	第 85 回日本臨床外科学会総会		
発表テーマ	術前 CT で診断した膀胱ヘルニアの一例		
日時	2023 年 11 月 16 日-18 日	発表者	福田雄介，臼杵尚志，石井健太郎
場所	岡山		
会名称	第 85 回日本臨床外科学会総会		
発表テーマ	StageⅣ胃癌に対し Conversion Surgery を施行し 5 年生存中の一例		
日時	2023 年 11 月 16 日-18 日	発表者	中野遙星，森　琢児，福田雄介，實近侑亮，今中　孝，小澤慎太郎，林田一真，加藤弘記，細田洋平，廣岡紀文，小川　稔，小川淳宏，西　敏夫，刀山五郎，丹羽英記
場所	岡山		
会名称	第 85 回日本臨床外科学会総会		
発表テーマ	地域中核病院での働き方改革に向けての工夫		
日時	2023 年 11 月 16 日-18 日	発表者	森　琢児，福田雄介，實近侑亮，今中　孝，小澤慎太郎，林田一真，加藤弘記，細田洋平，廣岡紀文，小川淳宏，西　敏夫，小川　稔，丹羽英記
場所	岡山		
会名称	第 111 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	遺残胆嚢管結石に対し経口胆道鏡（Spy Glass）を挿入し採石に至った症例		
日時	2023 年 11 月 18 日	発表者	新井勇輝，今中　孝，細田洋平，髙木康宏，淺井　哲
場所	大阪		
会名称	第 24 回 KHS コンベンション		
発表テーマ	せん妄戦略～予防を主体に～		
日時	2023 年 12 月 9 日	発表者	柄池真規子
場所	大阪		
会名称	第 24 回 KHS コンベンション		
発表テーマ	【座長】		
日時	2023 年 12 月 9 日	発表者	森　琢児

場所	大阪		
会名称	日本内科学会近畿支部主催　第 242 回近畿地方会		
発表テーマ	内視鏡ドレナージが奏功した外傷性膵損傷の 1 例		
日時	2023 年 12 月 9 日	発表者	宮尾哉希，今中　孝，細田洋平，松尾健司，竹下宏太郎，中尾栄祐，赤峰瑛介，藤本直己， 淺井　哲
場所	大阪		
会名称	第 17 回関西ヘルニア研究会		
発表テーマ	第 21 回日本ヘルニア学会報告【座長】		
日時	2023 年 12 月 16 日	発表者	上村佳央
場所	大阪		
会名称	第 36 回日本外科感染症学会総会学術集会		
発表テーマ	S 状結腸癌及び直腸癌の重複癌に対して腹腔鏡下低位前方切除術を施行し、 術後病理で 251 番リンパ節に結核性リンパ節炎を認めた 1 例		
日時	2023 年 12 月 15 日-16 日	発表者	加藤弘記，細田洋平，大竹弘泰，福田雄介，今中　孝，實近侑亮， 小澤慎太郎，林田一真，廣岡紀文，森　琢児，小川淳宏，上村佳央，西敏夫，丹羽英記
場所	北九州		
会名称	日本消化器病学会第 120 回近畿支部例会		
発表テーマ	右肝動脈瘤が胆嚢内に穿破し、胆道出血を繰り返した一例		
日時	2024 年 1 月 27 日	発表者	内山千晴，松原佳穂，橋本沙優里，小泉　葵，島　佳弘，橘村友哉， 大舘秀太，神保仁美，松尾健司，竹下宏太郎，中尾栄祐，一ノ名巧， 藤本直己，赤峰瑛介，淺井　哲，細田洋平，小川淳宏
場所	神戸		
会名称	第 207 回近畿外科学会		
発表テーマ	大腿ヘルニア虫垂嵌頓の一例		
日時	2024 年 2 月 3 日	発表者	河本知樹，小川　稔，大竹弘泰，福田雄介，今中　孝，實近侑亮， 小澤慎太郎，林田一真，加藤弘記，細田洋平，森　琢児，小川淳宏，上村佳央，西　敏夫，丹羽英記
場所	大阪		
会名称	多根総合病院　緩和ケア研修会		
発表テーマ	【企画責任者】		
日時	2024 年 2 月 17 日	発表者	柄池真規子
場所	大阪		

会名称	第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	Cetuximab が著明に奏功し、予後改善を示した直腸癌術後骨髄癌腫症の 1 例		
日時	2024 年 2 月 22 日-24 日	発表者	實近侑亮，岡田佳也，北代紗也，小川淳宏，小川　稔
場所	名古屋		
会名称	第 96 回日本胃癌学会総会		
発表テーマ	当院での 90 歳以上の超高齢者胃癌手術症例の検討		
日時	2024 年 2 月 28 日-3 月 1 日	発表者	加藤弘記，森　琢児，大竹弘泰，福田雄介，今中　孝，實近侑亮，小澤慎太郎，林田一真，細田洋平，小川　稔，小川淳宏，上村佳央，西　敏夫，丹羽英記
場所	京都		
会名称	地域で考える不眠症治療		
発表テーマ	入院患者の不眠対策		
日時	2024 年 3 月 7 日	発表者	柄池真規子
場所	大阪		
会名称	第 60 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	外傷性肝損傷による仮性動脈瘤を伴う門脈血栓に対して抗凝固療法中出血をきたし緊急肝切除を施行した 1 例		
日時	2024 年 3 月 21 日-22 日	発表者	今中　孝，細田洋平，福田雄介，大竹弘泰，實近侑亮，小澤慎太郎，林田一真，加藤弘記，森　琢児，小川　稔，小川淳宏，上村佳央，丹羽英記
場所	北九州		
会名称	第 60 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	Meckel 憩室の大網への炎症性癒着を起因とした絞扼性腸閉塞の 1 例		
日時	2024 年 3 月 21 日-22 日	発表者	大竹弘泰，細田洋平，福田雄介，今中　孝，實近侑亮，小澤慎太郎，林田一真，加藤弘記，森　琢児，小川　稔，小川淳宏，上村佳央，丹羽英記
場所	北九州		
会名称	第 60 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	巨大小腸 GIST により生じた小腸軸捻転の一例		
日時	2024 年 3 月 21 日-22 日	発表者	安田恭輔，森　琢児，細田洋平，橋本和明，大竹弘泰，福田雄介，今中　孝，實近侑亮，林田一真，小澤慎太郎，加藤弘記，廣岡紀文，小川淳宏，上村佳央，西　敏夫，小川　稔，丹羽英記
場所	北九州		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	緩和医療科
会名称	JCHO 大阪病院　PEACE 緩和ケア研修会			
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修			
日時	2023 年 7 月 8 日	発表者	石丸　英三郎	
場所	JCHO 大阪病院			
会名称	第 24 回多根総合病院開放型病院登録医総会			
発表テーマ	緩和医療とは？　多根総合病院における緩和ケアの役割			
日時	2023 年 9 月 2 日	発表者	石丸　英三郎	
場所	アートホテル大阪ベイタワー			
会名称	ベルランド総合病院　PEACE 緩和ケア研修会			
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修			
日時	2023 年 10 月 1 日	発表者	石丸　英三郎	
場所	ベルランド総合病院			
会名称	多根総合病院　PEACE 緩和ケア研修会			
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修			
日時	2024 年 2 月 17 日	発表者	石丸　英三郎	
場所	多根総合病院			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	整形外科
会名称	第 140 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会			
発表テーマ	肩鎖関節脱臼術後水平方向の評価-両側 3D-CT との比較-			
日時	2023/4/7-8	発表者	永井 宏和　中島 亮　松村 健一	
場所	奈良県奈良市		米田 真悟　城内 泰造　今井 晋二	
会名称	第 140 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会			
発表テーマ	上腕骨骨折に対する関節鏡視下髄内釘固定術の経験			
日時	2023/4/7-8	発表者	永井 宏和　八木 桂太郎　藤原 圭	
場所	奈良県奈良市		久山 陽一郎　野田 澄人　今井 晋二	
会名称	第 96 回日本整形外科学会学術総会			
発表テーマ	Neviaser 変法を併用した関節鏡視下肩鎖関節再建術-烏口鎖骨靭帯 1 重束再建と 2 重束再建の比較-			
日時	2023/5/11-14	発表者	永井 宏和　中島 亮　松村 健一	
場所	神奈川県横浜市		米田 真悟　八木 桂太郎　城内 泰造	
			藤原 圭　今井 晋二	

会名称	日本スポーツ整形外科学会 2023		
発表テーマ	鎖骨遠位端骨折に対する烏口鎖骨靭帯再建術 -骨折部固定方法の工夫-		
日時	2023/6/29-7/1	発表者	永井 宏和　中島 亮　松村 健一
場所	広島県広島市		米田 真悟 城内 泰造　今井 晋二
会名称	第 22 回肩と肘を語る会		
発表テーマ	プロ野球選手の胸鎖関節炎		
日時	2023/7/29	発表者	松村 健一
場所	大阪府大阪市北区		
会名称	第 50 回日本肩関節学会学術集会		
発表テーマ	肩鎖関節脱臼 3 重束靭帯再建術における内外側方向安定性の検討		
日時	2023/10/13-14	発表者	永井 宏和　中島 亮　松村 健一
場所	東京都新宿区		米田 真悟　城内 泰造　藤原 圭 今井 晋二
会名称	第 50 回日本肩関節学会学術集会		
発表テーマ	上腕骨近位端骨折に対する関節鏡視下髄内釘固定術の経験		
日時	2023/10/13-14	発表者	永井 宏和　中島 亮　松村 健一
場所	東京都新宿区		米田 真悟　城内 泰造　藤原 圭 今井 晋二
会名称	第 113 回肩を語る会		
発表テーマ	関節鏡を使った肩関節周囲外傷の手術治療-上腕骨近位端骨折と鎖骨遠位端骨折-		
日時	2023 年 12 月 2 日	発表者	永井 宏和
場所	京都府京都市下京区		
会名称	第 39 回 SUMS 骨・関節懇話会		
発表テーマ	上腕骨近位端骨折に対する関節鏡視下髄内釘固定術の経験		
日時	2024 年 3 月 16 日	発表者	永井 宏和
場所	京都府京都市下京区		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	脳神経外科
会名称	Neurosurgery Kinki 2023 Spring Meeting			
発表テーマ	アンデキサネットアルファ投与下に開頭血腫除去術を行った外傷性急性硬膜外血腫の一症例			
日時	2023/4/8	発表者	三木義仁、西居純平、住岡真也、	
場所	大阪府、大阪市		柳川伸子、小川竜介、多根一之	

会名称	日本脳神経外科学会　第 82 回学術総会		
発表テーマ	Chiari 1 型奇形に合併した塞栓性水頭症に対し内視鏡下第三脳室底開窓術が有効であった一症例		
日時	2023/10/25～10/27	発表者	三木義仁、小川竜介、田邉翔吾、西居純平、住岡真也、柳川伸子、多根一之
場所	神奈川県、横浜市		
会名称	日本脳神経外科学会　第 82 回学術総会		
発表テーマ	Translabyrinthine approach にて摘出した endolymphatic sac tumor の 1 例		
日時	2023/10/25～10/27	発表者	西居純平
場所	神奈川県、横浜市		
会名称	第 39 回日本脳神経血管内治療学会		
発表テーマ	開頭術後の仮性動脈瘤に対して閉塞試験後に母血管閉塞を施行した 1 例		
日時	2023/11/23～11/25	発表者	西居純平
場所	東京都		
会名称	第 38 回白馬脳神経外科セミナー		
発表テーマ	破裂内頚動脈瘤（後交通動脈分岐部）のクリッピング術において前脈絡叢動脈に難渋し、コイル塞栓術の追加を要した 1 例		
日時	2024/2/8～2/10	発表者	小川竜介、森本隆之、西居純平、藤城高広、三木義仁、山田佳孝、住岡真也、柳川伸子、多根一之
場所	北海道		
会名称	STROKE2024		
発表テーマ	瘤内コイル塞栓術後に細菌性脳動脈瘤破裂を併発した破裂脳動脈瘤の一症例		
日時	2024/3/7～3/9	発表者	三木義仁、田邉翔吾、西居純平、住岡真也、柳川伸子、小川竜介、多根一之
場所	神奈川県、横浜市		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	泌尿器科
会名称	第 110 回日本泌尿器科学会総会			
発表テーマ	Outcomes of hypofractionated radiotherapy for localized prostate carcinoma at Tane general hospital			
日時	2023 年 4 月 20 日-4 月 23 日	発表者	飯田孝太、橘　進彰、伊丹祥隆、橋村正哉、細川幸成、竹村玲子、森本英之、石井健太郎、藤本清秀	
場所	神戸市			
会名称	第 33 回日本尿路結石症会			
発表テーマ	ECRIS における吸引式アクセスシース：　Clear Petra と従来型シースとの比較検討			
日時	2023 年 8 月 25 日-8 月 26 日	発表者	伊丹祥隆、吉川貴之祐、飯田孝太、橋村正哉、細川幸成、藤本清秀	
場所	久留米市			
会名称	第 254 回日本泌尿器科学会関西地方会			
発表テーマ	保存的加療が可能であった Stage Ⅲ黄色肉芽腫性腎盂腎炎の 1 例			
日時	2023 年 10 月 7 日	発表者	林百合子、飯田孝太、吉川貴之祐、伊丹祥隆、橋村正哉、細川幸成、藤本清秀	
場所	大阪市			
会名称	第 254 回日本泌尿器科学会関西地方会			
発表テーマ	難治性であった Mycoplasma gentalium 尿道炎の 1 例			
日時	2023 年 10 月 7 日	発表者	吉川貴之祐、伊丹祥隆、飯田孝太、橋村正哉、細川幸成、藤本清秀	
場所	大阪市			
会名称	第 73 回日本泌尿器科学会中部総会			
発表テーマ	CT での前立腺石灰化の定量化と自覚症状・客観的検査所見との臨床的検討			
日時	2023 年 10 月 12 日-10 月 14 日	発表者	伊丹祥隆、吉川貴之祐、飯田孝太、橋村正哉、細川幸成、藤本清秀	
場所	奈良市			
会名称	第 73 回日本泌尿器科学会中部総会			
発表テーマ	当院における上部尿路上皮内癌に対する BCG 腎盂内注入療法の長期治療成績			
日時	2023 年 10 月 12 日-10 月 14 日	発表者	飯田孝太、吉川貴之祐、伊丹祥隆、橋村正哉、細川幸成、藤本清秀	
場所	奈良市			
会名称	第 73 回日本泌尿器科学会中部総会			

発表テーマ	当院における尿膜管癌 5 例の治療経験		
日時	2023 年 10 月 12 日-10 月 14 日	発表者	吉川貴之祐、伊丹祥隆、 飯田孝太、橋村正哉、細川幸成、 藤本清秀
場所	奈良市		
会名称	第 37 回日本泌尿器内視鏡学会総会		
発表テーマ	上部尿路上皮癌の診断における選択的尿細胞診、尿管鏡検査の有用性についての検討		
日時	023 年 11 月 9 日-11 月 11 日	発表者	飯田孝太、吉川貴之祐、 伊丹祥隆、橋村正哉、細川幸成、 藤本清秀
場所	米子市		
会名称	第 37 回日本泌尿器内視鏡学会総会		
発表テーマ	ECIRS における吸引式アクセスシース: Clear Petra の臨床的検討		
日時	2023 年 11 月 9 日-11 月 11 日	発表者	伊丹祥隆、吉川貴之祐、 飯田孝太、橋村正哉、細川幸成、 藤本清秀
場所	米子市		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	耳鼻咽喉科
会名称	第 7 回 ENT ステップアップ WEB 勉強会			
発表テーマ	当院におけるめまい診療 -BPPV 患者における自己でのエプリー法に関する研究報告と共に-			
日時	2023 年 4 月 20 日	発表者	大野　峻	
場所	大阪			
会名称				
発表テーマ	当院での経鼻内視鏡手術の取り組み -日帰り手術、経鼻頭蓋底手術-			
日時	2023 年 5 月 13 日	発表者	天津久郎	
場所	大阪市西区			
会名称	第 85 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会			
発表テーマ	甲状腺合併切除に至った魚骨異物の 1 例			
日時	2023 年 06 月 24，25 日	発表者	平山靖子，清水保彦，清水香奈子， 坂本達則	
場所	東京			
会名称	第 62 回日本鼻科学会総会，学術講演会			
発表テーマ	鼻出血に対して内視鏡下蝶口蓋動脈結紮術，顎 動脈塞栓術を施行した症例の検討			
日時	2023 年 9 月 28－30 日	発表者	天津久郎，竹宮由美，亀井優嘉里， 大野　峻，橋本孝介，金本紀亜， 平山靖子	
場所	三重			

会名称	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方連合会第 365 回例会		
発表テーマ	良性発作性頭位めまい症の患側と睡眠頭位の検討		
日時	2023 年 10 月 7 日	発表者	大野 峻、平山靖子、天津久郎
場所	大阪		
会名称	第 82 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会		
発表テーマ	良性発作性頭位めまい症の患側と睡眠頭位の検討		
日時	2023 年 10 月 27 日	発表者	大野 峻、平山靖子、天津久郎
場所	新潟		
会名称	第 33 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会		
発表テーマ	経鼻内視鏡手術での粘膜縫合での持針器、結紮方法の工夫		
日時	2024 年 2 月 1，2 日	発表者	天津久郎，大野　峻，平山靖子
場所	愛媛		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	形成外科
会名称	第 23 回形成外科集学医療技術研究会			
発表テーマ	眼瞼下垂症例における Dry Eye related Quality of laife Score(DEQS)の利用とその推移			
日時	2023 年 5 月 20 日	発表者	福村崇	
場所	大阪			

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	放射線診断部
会名称	第 39 回日本放射線技師学術大会			
発表テーマ	院における放射線技師介入による脳神経外科手術シミュレーション画像作成について			
日時	2023 年 9 月 29 日～2023 年 10 月 1 日	発表者	夏日　勇人	
場所	熊本			
会名称	第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会			
発表テーマ	髄膜腫摘出術前塞栓術の検討において CBCT の fusion が有用であった一例			
日時	2023 年 11 月 23 日～2023 年 11 月 25 日	発表者	夏日　勇人	
場所	京都			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	放射線治療科
会名称	第 61 回日本癌治療学会			
発表テーマ	高リスク群前立腺癌に対する VMAT を用いた全骨盤照射の治療成績			
日時	2023 年 11 月 30 日－12 月 2 日	発表者	竹村　玲子	
場所	横浜			
会名称	日本放射線腫瘍学会第 36 回学術大会			
発表テーマ	前立腺癌に対して寡分割照射を行った患者の治療後 24 か月時までの QOL 変化			
日時	2023 年 11 月 30 日－12 月 2 日	発表者	森本　英之	
場所	横浜			
会名称	日本放射線腫瘍学会第 36 回学術大会			
発表テーマ	がん放射線療法看護特定認定看護師としての役割-特定行為研修後の実践-			
日時	2023 年 11 月 30 日－12 月 2 日	発表者	島田　千暁	
場所	横浜			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	救急科
会名称	第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会			
発表テーマ	マスギャザリングイベントと周辺医療機関の救急外来の関係			
日時	2023 年 7 月 28 日	発表者	福岡大史	
場所	帝京大学板橋キャンパス			
会名称	第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会			
発表テーマ	自己転倒により救急搬送された高齢患者に関する検討			
日時	2023 年 7 月 28 日	発表者	升井淳	
場所	帝京大学板橋キャンパス			
会名称	第 29 回日本災害医学会総会・学術集会			
発表テーマ	当院 DMAT における隊員数の推移			
日時	2024 年 2 月 23 日	発表者	柳英雄	
場所	みやこめっせ			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	腫瘍内科
会名称	第 28 回日本緩和医療学会学術大会			
発表テーマ	緩和ケア病棟における退院希望達成状況からみる在宅移行阻害要因に関する考察			
日時	2023 年 6 月 30 日～7 月 1 日	発表者	川居利有、岡田佳也、武内千秋	
場所	神戸国際会議場ほか			
会名称	第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会			
発表テーマ	The utility of the outpatient by certified pharmacist			
日時	2024 年 2 月 22 日～2 月 24 日	発表者	Yuka Iwai, Yoshinari Okada, Saya Kitashiro, Takashi Sonoda, Akemi Morimoto	
場所	名古屋国際会議場			
会名称	第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会			
発表テーマ	A case of carcinomatosis of the bone marrow from rectum surviving by remarkable response with Cetuximab			
日時	2024 年 2 月 22 日～2 月 24 日	発表者	Yusuke Sanechika, Atsuhiro Ogawa, Saya Kitashiro, Yoshinari Okada	
場所	名古屋国際会議場			
会名称	第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会			
発表テーマ	A case of ampullary cancer indicating good response with PTX			
日時	2024 年 2 月 22 日～2 月 24 日	発表者	Mai Hayashi, Saya Kitashiro, Yoshinari Okada	
場所	名古屋国際会議場			
会名称	がん教育			
発表テーマ	がんについて、緩和ケアなど			
日時	2024 年 12 月 12 日	発表者	岡田佳也、米谷晶子	
場所	大阪府立大正白稜高等学校			

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	循環器内科
会名称	第 136 回日本循環器学会近畿地方会			
発表テーマ	失神を伴う流出路起源の非持続性心室頻拍に対してカテーテルアブレーションを施行した一例			
日時	2023 年 12 月 16 日	発表者	森脇和希	
場所	大阪市			
会名称	第 136 回日本循環器学会近畿地方会			
発表テーマ	脱水が原因と考えられた肺血栓塞栓症の一例			
日時	2023 年 12 月 16 日	発表者	安田恭輔、田中佐和、森脇和希、西垣圭祐、塚本拓也、山崎玲子、福田圭祐、土井淳史、瓦林孝彦	
場所	大阪市			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	看護部
会名称	第 28 回日本緩和医療学会			
発表テーマ	「がん告知支援時における Grisso の医師決定支援能力評価と年齢との相関」			
日時	2023 年 6 月 30 日	発表者	米谷　晶子	
場所	神戸国際展示場			
会名称	STROKE2023 看護シンポジウム			
発表テーマ	「院内発症脳卒中の早期発見に向けて～脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が行う出前勉強会の効果」			
日時	2023 年 3 月 17 日	発表者	應本　勝美	
場所	パシフィコ横浜			
会名称	第 22 回　大阪府病院学会			
発表テーマ	夜間緊急入院受け入れ病床設置による看護管理への影響			
日時	2023.10.8	発表者	尾崎　昭太	
場所	グランキューブ大阪			
会名称	第 22 回　大阪府病院学会			
発表テーマ	A 病院看護師の過去 5 年間の所定外労働時間の推移と分析			
日時	2023.10.8	発表者	清家美紀・廣川まどか	
場所	グランキューブ大阪			
会名称	第 22 回　大阪府病院学会			
発表テーマ	COVID-19 入院患者のストレスに対するコーピングを支援する看護 ～ラザルスの心理学的ストレスモデルを用いた考察～			
日時	2023.10.8	発表者	桐吉美帆・鳥屋原由子	
場所	グランキューブ大阪			

会名称	第 22 回　大阪府病院学会		
発表テーマ	ICU における看護師のアドバンス・ケア・プランニング支援の意識調査		
日時	2023.10.8	発表者	丸石綾子
場所	グランキューブ大阪		
会名称	第 22 回　大阪府病院学会		
発表テーマ	ナースエイドによるナースコール対応時間短縮に向けた取り組み		
日時	2023.10.8	発表者	富澤良子
場所	グランキューブ大阪		
会名称	第 22 回　大阪府病院学会		
発表テーマ	不要な内線電話減少に向けての取り組み		
日時	2023.10.8	発表者	福田恵美・寺澤理佳
場所	グランキューブ大阪		
会名称	日本放射線腫瘍学会第 36 回学術大会		
発表テーマ	がん放射線療法看護特定認定看護師としての役割　特定行為研修後の実践		
日時	2023 年 12 月 1 日	発表者	島田　千暁
場所	パシフィコ横浜		
会名称	第 54 回　日本看護学会学術集		
発表テーマ	大阪府における ACP 普及推進～ACP 支援コーディネーターの活動報告～		
日時	2023.9.29	発表者	應本　勝美
場所	グランキューブ大阪		
会名称	全国病院経営管理学会　第 58 回大会		
発表テーマ	A 病院看護師のワーク・エンゲージメントの変化～エンゲージメント・サーベイを用いて～		
日時	2023.11.17	発表者	渡上　朋美
場所	日本病院会ホスピタルプラザビル		
会名称	第 11 回　大阪府看護学会		
発表テーマ	ベンゼトニウム塩化物　うがい液 0.2%「KYS」を口腔ケアに使用した 前後の人口呼吸器関連肺炎発生率の比較		
日時	2023 年 12 月 2 日	発表者	平田　昌吾
場所	大阪府看護協会　ナーシングアート大阪		
会名称	第 24 回 KHS コンベンション		
発表テーマ	夜間緊急入院受け入れ専用病床の設置の効果～急性期病院一般病棟の夜勤看護師への影響～		
日時	2023 年 12 月 9 日	発表者	津谷　量哉
場所	グランドプリンスホテル大阪ベイ		

会名称	看護部会月例勉強会		
発表テーマ	「新人教育を含む現任教育（シンポジウム）」に関する研修会 社会医療法人きつこう会教育体制		
日時	2024 年 2 月 13 日	発表者	松下　広美
場所	大阪府病院年金会館		

会名称	きつこう会看護部研修　「前期院外研修発表・長期研修報告会」		
発表テーマ	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会		
日時	2023.10.16	発表者	笹倉　幸代
場所	きつこう会　本部		

会名称	特定行為研修修了者		
発表テーマ	特定行為研修修了者の報告		
日時	2023.10.16	発表者	宮本奈奈
場所	きつこう会　本部		

会名称	第 38 回日本がん看護学会学術集会		
発表テーマ	コラボレーションー深化・進化するがん看護ー		
日時	2024.2.24・25	発表者	植村　未奈子
場所	神戸国際会議上		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	医療技術部　中央検査部門
会名称	第６２回日臨技近畿支部医学検査学会			
発表テーマ	検体搬送装置（LPAM）の導入効果			
日時	2023/10/21～22	発表者	竹中鈴菜	
場所	ホテル アバローム紀の国			

【学会発表】	施設：	医療技術部	部署：	栄養管理部門
会名称	日本病態栄養学会			
発表テーマ	NST 介入により経腸栄養管理の高齢患者が完全経口摂取で元の施設へ帰所できた 1 例			
日時	2024 年 1 月 28 日(日)	発表者	松本　恵実	
場所	京都国際会館			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	リハビリテーション科
会名称	第 22 回大阪病院学会			
発表テーマ	新型コロナウィルス感染症に対するリハビリテーションの経験			
日時	2023 年 10 月 8 日	発表者	村上　和正	
場所	グランキューブ大阪			
会名称	第 11 回日本運動器理学療法学術大会			
発表テーマ	胸郭出口症候群を合併し上肢挙上動作獲得に難渋した肩関節不安定症の一症例			
日時	2023 年 10 月 13 日～10 月 15 日	発表者	平岡　俊介	
場所	福岡国際会議場			
会名称	第 63 回近畿理学療法学術大会			
発表テーマ	肩関節脱臼の既往がある肩峰下及び烏口下インピンジメント症状に対する可動域の工夫			
日時	2024 年 2 月 3 日～4 日	発表者	髙岡　聖矢	
場所	琵琶湖ホテル			

【執筆・論文】

【執筆・論文】	施 設：	多根総合病院	部 署：	消化器内科
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
タイトル	十二指腸憩室炎の後腹膜穿破により形成された膵周囲膿瘍に対して 保存的治療を選択し寛解した 1 例			
著 者	紫藤健太，藤本直己，島　佳弘，小林潤一 久松健人，藤田裕真，髙木康宏，大舘秀太 神保仁美，松尾健司，中尾栄祐，一ノ名巧 赤峰瑛介，淺井　哲		掲載号 掲載年等	12(1), 55-58 2023/3

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	外科
掲載誌名	日本外科学会雑誌			
執筆・論文 タイトル	地域拠点病院での働き方改革への対応			
著者	森　琢児，實近侑亮，今中　孝，小澤慎太郎，林田一真， 加藤弘記，細田洋平，廣岡紀文，小川　稔，小川淳宏， 上村佳央，西　敏夫，丹羽英記		掲載号 掲載年等	124(6)，599-561 2023 年 11 月 1 日

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	整形外科
掲載誌名	肩関節			
執筆・論文 タイトル	Neviaser 変法を併用した 2 重束烏口鎖骨靱帯再建術-1 重束再建術との比較-			
著者	永井 宏和　中島 亮　松村 健一　米田 真悟 城内 泰造　藤原 圭　今井 晋二		掲載号 掲載年等	第 47 巻，第 1 号，p 47-53
掲載誌名	中部日本整形外科災害外科学会雑誌			
執筆・論文 タイトル	肩鎖関節脱臼術後水平方向の評価-X 線軸射像と両側 3D-CT との比較-			
著者	永井 宏和　松村 健一　米田 真悟 今井 晋二		掲載号 掲載年等	第 66 巻，第 4 号，p537-ｐ538
掲載誌名	中部日本整形外科災害外科学会雑誌			
執筆・論文 タイトル	上腕骨骨折に対する関節鏡視下髄内釘固定術の経験			
著者	永井 宏和　八木 桂太郎　藤原 圭 野田 澄人　今井 晋二		掲載号 掲載年等	第 66 巻，第 5 号，p725-ｐ726
掲載誌名	日本人工関節学会誌			
執筆・論文 タイトル	TKA 後生じた脛骨近位部インプラント周囲骨折に対してダブルプレートを用いて骨折観血的手術を施行した 1 例			
著者	山田 智輝　種村 雅人　難波江 正浩 松末 吉隆　今井 晋二		掲載号 掲載年等	第 53 巻，p609-p610
掲載誌名	中部日本整形外科災害外科学会雑誌			
執筆・論文 タイトル	リスフラン靱帯損傷に対して観血的整復固定術を施工した 2 例			
著者	山田 智輝　難波江 正浩　小川 亮三 今井 晋二		掲載号 掲載年等	第 66 巻，第 5 号，p747-p748

【執筆・論文】	施 設：	多根総合病院	部 署：	脳神経外科
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
タイトル	片頭痛診療の新たなるステージ			
著 者	住岡真也、西居純平、三木義仁、小川竜介 多根一之		掲載号 掲載年等	12(1):3-14, 2023

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	耳鼻咽喉科
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	術前血管塞栓術を施行し経鼻内視鏡下に摘出した上顎洞血瘤腫の一例			
著者	平山靖子，天津久郎，大野峻、小川竜介， 西居純平		掲載号 掲載年等	第 13 巻、2024（in press）

【執筆・論文】	施 設：	多根総合病院	部 署：	形成外科
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
タイトル	副耳下腺多形腺腫の 1 例			
著 者	建林 里佳 他		掲載号 掲載年等	第 12 巻　第 1 号［ 2023 年 ］

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	救急科
掲載誌名	日本臨床救急医学会雑誌			
執筆・論文 タイトル	自己転倒により救急搬送された高齢患者に関する検討			
著者	升井淳		掲載号 掲載年等	26 巻 5 号

【執筆・論文】	施 設：	多根総合病院	部 署：	医療技術部　中央検査部門
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
タイトル	ヘパリン投与例におけるＡＰＴＴ試薬の反応性に関する検討			
著 者	柏井　伸幸、森下　律子、杉山　昌晃 川住　勇、竹浦　久司		掲載号 掲載年等	第 11 巻　第 1 号　2022

【執筆・論文】	施設：	総合病院	部署：	医療技術部臨床工学部門
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	視覚誘発電位（VEP）モニタリングにて誘発電位の振幅低下を認めた一例			
著者	辻元　航大		掲載号 掲載年等	第 13 巻

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	リハビリテーション科
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	インターナル・インピンジメントにより SLAP 損傷、棘上筋損傷、Bennet 病変が生じた大学生野球選手に対する理学療法			
著者	金井　義則、場工美由紀		掲載号 掲載年等	第 12 巻　第 1 号　2023 年

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	腫瘍内科
掲載誌名	J Gastrointest Oncol.			
執筆・論文 タイトル	Phase II study of biweekly cetuximab plus mFOLFOX6 or mFOLFIRI as second-line treatment for metastatic colorectal cancer and exploratory analysis of associations between DNA methylation status and the efficacy of the anti-EGFR antibody: T-CORE1201			
著者	Shin Takahashi, Yoshinari Okada, Chikashi Ishioka et al		掲載号 掲載年等	2023;Apr29;14(2):676-691

【執筆・論文】	施設：	総合病院	部署：	循環器内科
掲載誌名	JACC:CLINICAL ELECTROPHYSLOLOGY			
執筆・論文 タイトル	Astushi Doi、Narrow QRS Antidromic Tachycardia Utilizing a Slow-Conducting Bypass Tract			
著者	Atsushi Doi,Kazuki Moriwaki,Keisuke Nishigaki,Takuya Tsukamotgo,Sawa Tanaka,Reiko Yamasaki,Keisuke Fukuda,Takahiko Kawarabayashi,Daiju Fukuda.		掲載号 掲載年等	2024:10:439-446 2024 年 2 月

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	泌尿器科
掲載誌名	泌尿器外科			
執筆・論文 タイトル	大量血小板輸血を要する播種性血管内凝固を合併した去勢抵抗性前立腺癌の 1 例			
著者	橘　進彰、飯田孝太、伊丹祥隆、 橋村正哉、豊島優多、細川幸成、藤本清秀		掲載号 掲載年等	(36) 169-173,2023
掲載誌名	IJU Case Rep.			
執筆・論文 タイトル	Composite pheochromocytoma associated with neurofibromatosis type 1			
著者	Akira Tachibana, Kota Iida , Yoshitaka Itami, Masaya Hashimura, Yukinari Hosokawa, and Kiyohide Fujimoto		掲載号 掲載年等	2023; https://doi.org/10.1002/iju5.12603

掲載誌名	泌尿紀要		
執筆・論文 タイトル	副腎悪性腫瘍と鑑別困難であった副腎血管腫性内皮嚢胞の 1 例		
著者	橘　進彰、伊丹祥隆、飯田孝太、 橋村正哉、豊島優多、細川幸成、藤本清秀	掲載号 掲載年等	(69) 243-247,2023
掲載誌名	泌尿紀要		
執筆・論文 タイトル	尿路感染症による敗血症性 DIC に対する遺伝子組み換えトロンボモジュリンの有効性についての検討		
著者	橘　進彰、飯田孝太、伊丹祥隆、 橋村正哉、細川幸成、藤本清秀	掲載号 掲載年等	(69) 309-314,2023

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	放射線治療科
掲載誌名	Journal of Radiation Research			
執筆・論文 タイトル	Long-term outcomes of whole-pelvis radiation therapy using volumetric modulated arc therapy for high-risk prostate cancer			
著者	R Takemura, K Ishii, Y Hosokawa, H Morimoto, S Matsuda, R Ogino, K Shibuya		掲載号 掲載年等	64(5), 2023, 850-856
掲載誌名	Radiotherapy and Oncology			
執筆・論文 タイトル	Establishing quality indicators to comprehensively assess quality assurance and patient safety in radiotherapy and their relationship with an institution’s background.			
著者	Norifumi Mizuno, Hiroyuki Okamoto, Toshiyuki Minemura, Shinji Kawamura, Naoki Tohyama, ,Masahiko Kurooka, Ryu Kawamorita, Masaru Nakamura, Yoshinori Ito, Yoshiyuki Shioyama,Hidefumi Aoyama, Hiroshi Igaki.		掲載号 掲載年等	179 (2023) 109452.

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	看護部
掲載誌名	メディカ出版　「2023 年夏季増刊号」			
執筆・論文 タイトル	『みんなの呼吸　Respica』			
著者	米倉　修司		掲載号 掲載年等	2023 年夏季増刊号
掲載誌名	日総研出版　隔月刊「重症集中ケア」			
執筆・論文 タイトル	挿管チューブの適切な位置と長さは？			
著者	矢野　晋		掲載号 掲載年等	2023 年 6･7 月号
掲載誌名	日総研出版　隔月刊「重症集中ケア」			
執筆・論文 タイトル	気管切開チューブが抜けたときの対応は？			
著者	矢野　晋		掲載号 掲載年等	2023 年 8･9 月号
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	「消化管穿孔術後に ARDS を発症した高度肥満患者へ腹臥位療法が奏功した 1 例」			
著者	米倉　修司		掲載号 掲載年等	
掲載誌名	多根総合病院医学雑誌			
執筆・論文 タイトル	急性期病院看護師の過去 5 年間の所定外労働時間の推移と分析			
著者	廣川　まどか		掲載号 掲載年等	
掲載誌名	医学書院　看護管理			
執筆・論文 タイトル	サーバント・リーダーシップを基軸とした看護管理者の育成とマネジメントの遂行			
著者	大崎　和子		掲載号 掲載年等	第 33 巻第 5 号